

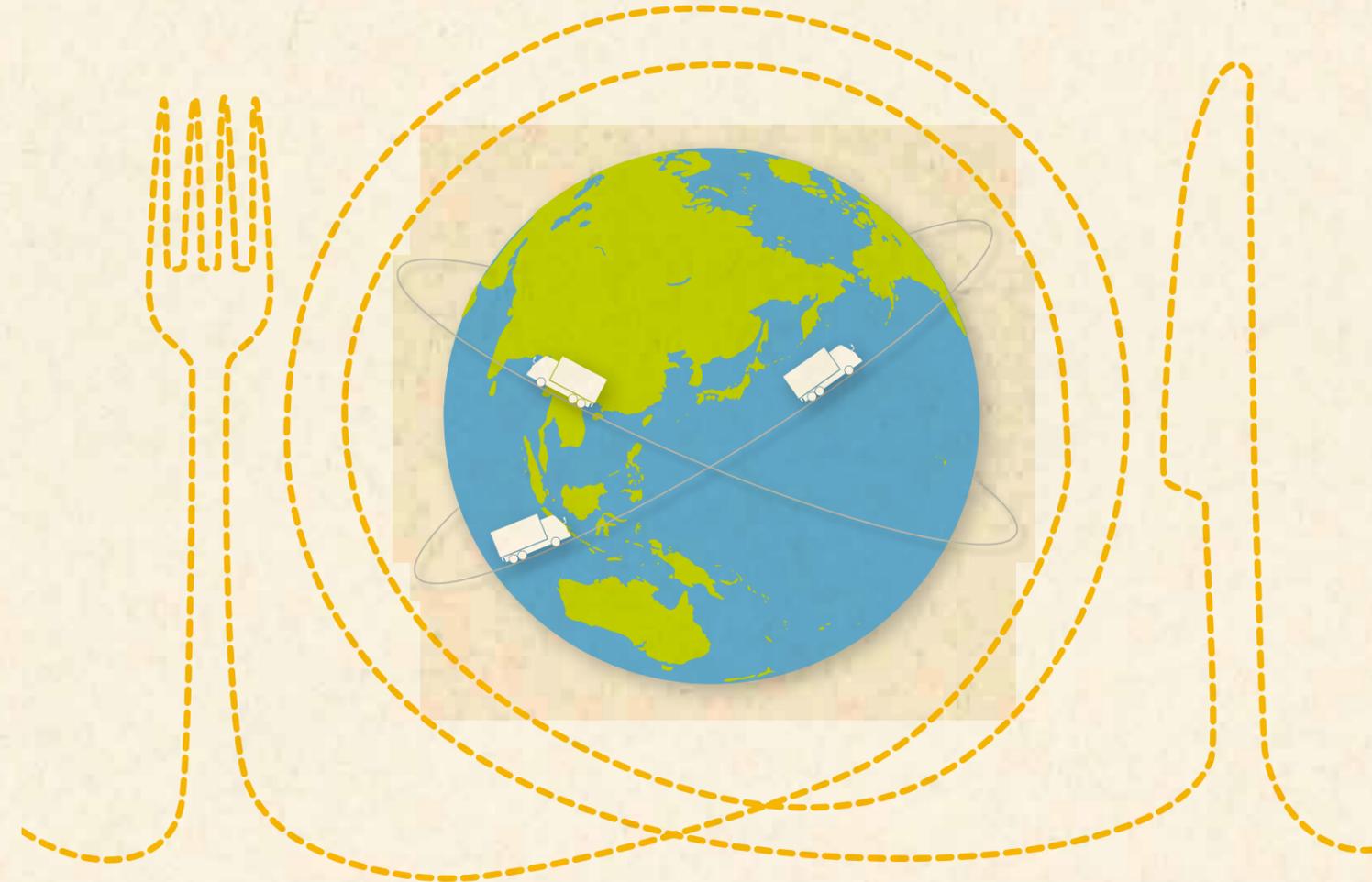
# ニチレイグループ CSRLレポート2012 〈ダイジェスト版〉



## 株式会社ニチレイ

経営企画部  
技術戦略企画部(環境チーム)

〒104-8402 東京都中央区築地六丁目19番20号 ニチレイ東銀座ビル  
TEL 03-3248-2232 FAX 03-3248-2120  
URL <http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/index.html>



当社は年間100万kWhのグリーン電力を契約し、  
本CSRレポートの印刷・製本にかかる  
電力(683kWh)相当分をこの一部でまかっています。



この報告書は、国内の山林を保全するために切り出された間伐材を10%以上、古紙を30%以上使用した印刷用紙を使用しています。  
インキは[VOC(揮発性有機化合物)成分ゼロ]のインキを使用し、印刷は印刷工程で有害廃液を出さない「水なし印刷」で行っています。

NAME \_\_\_\_\_

株式会社ニチレイ

## 編集方針

ニチレイグループはCSR活動を幅広いステークホルダーの皆さまにご理解いただき、コミュニケーションを深めるためにCSRレポートを作成しています。Webサイトにフルレポートを掲載し、冊子はダイジェスト版として発行しています。

本ダイジェスト版はCSR「6つの責任」(→P6参照)を背景にした活動の中で、ステークホルダーの皆さまに特に知っていただきたい事例について掲載しました。

特集ページでは、食の安全・安心について担当者がディスカッションした様子や当社グループの海外事業、また巻末には東日本大震災後の対応も掲載しました。Webサイトでは、よりわかりやすく多くの皆さまにご覧いただくため、トップメッセージの映像を掲載しています。

### ニチレイグループCSRレポート2012

URL : <http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/index.html>  
本ダイジェスト版に掲載されていない取り組み事例をWebサイトで紹介しています。

各項目のURL、Webサイトでの掲載場所、Webサイトでの掲載内容は各ページ上部をご参照ください。

### ◆対象期間

2011年4月1日～2012年3月31日の活動実績を中心に掲載しています。

### ◆対象範囲

ニチレイグループの国内事業所およびグループ会社を対象範囲として記述しています。

(上記と対象範囲が異なる場合、その旨を記載しています)

### ◆発行月

2012年6月

### ◆作成部署・お問い合わせ先

株式会社ニチレイ 経営企画部  
技術戦略企画部(環境チーム)  
TEL 03-3248-2232 FAX 03-3248-2120

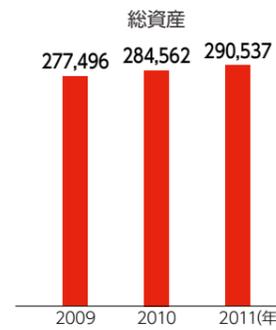
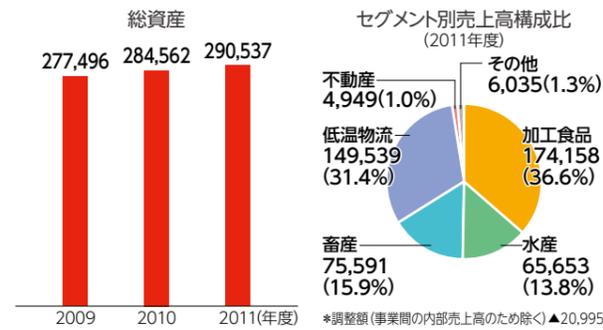
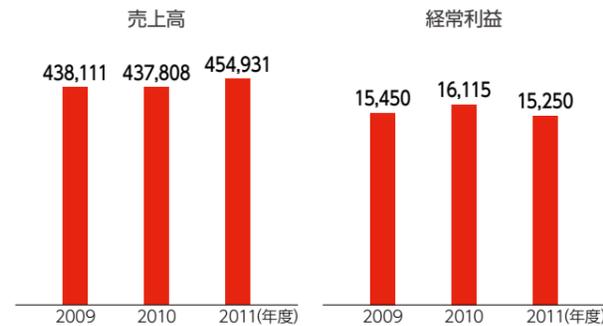
## CONTENTS

編集方針/会社概要	2	働きがいの向上	18	社会貢献の推進	26
ニチレイグループの事業概要	3	従業員満足度調査(ES調査)		食育活動	
ニチレイグループの企業経営理念	4	ミッション・ビジョン・行動指針の再制定		物流に関する教育	
トップメッセージ	5	ダイバーシティの取り組み		東日本大震災被災地での支援活動事例	
●特集1		Web 人材の雇用・登用		Web 地域密着活動/寄付活動/収集活動/支援活動	
食に関わる企業の使命とは?	8	●特集2		東日本大震災後のニチレイグループの対応報告と今後	28
ニチレイグループの海外事業	12	環境への配慮	22	マネジメント	30
●特集2		2011年度の取り組み状況		コンプライアンスの徹底	
ニチレイグループの海外事業	12	食品工場におけるCO <sub>2</sub> 削減		業務執行・経営監視	
食の安全・安心	16	物流におけるCO <sub>2</sub> 削減		Web お客様とのコミュニケーション/ 株主の皆様とのコミュニケーション/ お取引先様とのコミュニケーション	
グループの品質保証		Web 環境マネジメント/環境社内教育/ オフィスにおけるCO <sub>2</sub> 削減/ ごみの削減・リサイクル/化学物質管理/ 水域・大気への排出抑制/生物多様性		第三者意見	31
～食品安全センターの取り組み～					
ニチレイフーズの品質保証					
ニチレイフレッシュの品質保証					

## 会社概要 (資本金および従業員数は2012年3月末日現在)

商号 株式会社ニチレイ  
創立 1945(昭和20)年12月1日  
資本金 30,307百万円  
従業員数 12,082名(連結)  
本社所在地 〒104-8402  
東京都中央区築地六丁目19番20号  
ニチレイ東銀座ビル  
電話番号 03-3248-2101(代表)

### 連結業績の推移 (単位:百万円)



## ニチレイグループの事業概要

### 株式会社ニチレイ

[持株会社]

ニチレイグループ全体を統括する持株会社として、グループ全体の経営プランニング・モニタリング・資金調達・各事業会社の経営支援の機能を有し、企業価値の最大化を目指した組織運営を推進しています。またグループが保有する土地などの資産を有効活用する不動産事業を運営しています。

代表取締役社長: 村井 利彰 資本金: 30,307百万円

### 株式会社ニチレイフーズ

[加工食品事業]

人々の暮らしを見つめ、食を通じ健康で豊かな社会の実現に貢献することを目指し、「おいしさ」「健康」「楽しさ」「安全・安心」「簡単・便利」「安定供給」「適正価格」を7つの基本価値としています。冷凍食品、レトルト食品、ウェルネス食品を通じて常に独自能力を磨き卓越した価値を創造することで、世界で最も信頼される食品企業を目指します。

代表取締役社長: 池田 泰弘 資本金: 15,000百万円



### 株式会社ニチレイフレッシュ

[水産・畜産事業]

グローバルな調達機能を活かし、「鮮度」「おいしさ」「安全」「安心」「健康」「環境にやさしい」をキーワードに、水産品・畜産品の「こだわり素材」の開発を進めています。あわせて「持続可能性」を念頭に、資源や環境にも配慮。より高い「生活者価値の創出」を通じて、お客様の期待にお応えできるよう、新たな事業分野への挑戦や社会との調和にも積極的に取り組んでいます。

代表取締役社長: 早間 元晴 資本金: 8,000百万円



### 株式会社ニチレイロジグループ本社

[低温物流事業]

輸配送を軸とした物流ネットワーク会社と、冷蔵倉庫事業を担う地域保管会社、低温物流施設の企画から運営管理まで支援するエンジニアリング会社で構成される、国内最大規模の低温物流企業グループです。高度な物流情報システムインフラで結ばれた輸送、保管、流通加工、配送から、物流センターの設計・施工・メンテナンスまで、サプライチェーン全体にわたる高品質なサービスを提供。荷主企業様の物流最適化に貢献し、日本の「食」を支えています。

代表取締役社長: 松田 浩  
資本金: 20,000百万円



### 株式会社ニチレイバイオサイエンス

[バイオサイエンス事業]

セルバイオロジーと機能性素材を事業分野に、細胞培養関連試薬・診断薬・化粧品原料などの製造、販売を行っています。グループの素材調達力、細胞生物学・免疫学分野の経験を活かして、医療・美容・健康・バイオ産業の発展に貢献する技術志向型企業を目指しています。

代表取締役社長: 中村 隆 資本金: 450百万円

化粧品原料: 高圧抽出プラセンタエキスによる細かいシワを目立たなくする効果



### 株式会社ニチレイプロサーヴ

[シェアードサービス事業]

ニチレイグループ各社に共通する人事、総務、法務、財務、経理などのシェアードサービスを提供する会社です。お客様が期待する「プロとしての技術、ノウハウ、専門知識に基づく高品質なサービスをリーズナブルな価格で提供すること」に努めています。



代表取締役社長: 大谷 邦夫  
資本金: 100百万円



## ニチレイグループの企業経営理念

### ● ミッション ●

くらしを見つめ、人々に心の満足を提供する

ニチレイグループは、人々のくらしに本当に役立つ商品やサービスを一所懸命に創り出し、健康でこころの豊かな生活の実現に貢献します。

### ● ビジョン ●

ニチレイグループは、卓越した食品と物流のネットワークを備える「食のフロンティアカンパニー」として、お客様にご満足いただける優れた品質と価値ある商品・サービスを創造・提供し、広く好感と信頼を寄せられる企業として、社会とともに成長します。

### ● 発想と行動の原点 ●

ひたすらお客様のために！

### ● 経営姿勢 ●

- 1. お客様第一、安全第一、品質第一を貫く
- 2. 健全な利益を追求する
- 3. 付加価値を適正に配分する
- 4. 法と社会の秩序を守る
- 5. 公正な競争に徹する
- 6. 透明性の高い経営を推進する
- 7. 資源と環境を大切にす
- 8. 世界を見据える

### ● ステークホルダーのために ●

#### お客様に

ニチレイグループは、究極のお客様である生活者の方々に、真に役立つ商品とサービスを開発し、提供し続けます。そして、お客様と当企業グループが、共に繁栄できることを願って、永続的な相互信頼関係を築きます。

#### 株主・投資家に

ニチレイグループは、より収益性の高い事業を選定・遂行して資本効率を高め、企業価値の向上を実現します。また、株主・投資家の方々に適正な還元を行います。

#### ビジネスパートナーに

ニチレイグループは、ビジネスパートナーの方々に、イコールパートナーとして公正な姿勢で臨み、信頼関係を築き、共存共栄を目指して相互発展に努めます。

#### 従業員に

ニチレイグループは、従業員こそ企業発展の源であると考え、会社の仕事が従業員一人一人にとってやり甲斐のあるものであり、自己実現の場の一つとなることを願っています。同時に、従業員個人の尊厳と個性の発揮並びに個人生活の充実を尊重します。そのために、能力開発と能力発揮の機会の提供、能力と努力と成果に見合った処遇制度の実施、安全で風通し良く活性化された職場環境づくりを行います。また、性別・年齢・学歴・人種・宗教などに関するあらゆる差別をなくし、処遇の機会均等を実現します。

#### 社会に

ニチレイグループは、地域社会に企業市民として参加し、事業活動を通じて社会の発展に貢献するとともに、ハンディキャップをもつ人々への支援や文化活動などへの参加と支援を継続的に進めます。

### ニチレイグループ ブランドステートメント

「おいしさ」と「新鮮」をネットワークする。

ニチレイは、品質へのあくなきこだわりと、培われた技術、新しいアイデア、グループトータルのネットワークによって、新鮮で、健康なおいしさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していきます。

## トップメッセージ

# 企業の社会的責任を再認識した1年 『食を守り抜く』この使命を全うしていきます



代表取締役会長

浦聖光人

代表取締役社長

村井利彰

### 大災害を乗り越えて

甚大な被害をもたらした東日本大震災の発生から1年3ヶ月が過ぎました。

依然として約3千名の方々が行方不明であり、ご家族にとって心休まる日は今なお訪れておりません。改めて哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

東日本大震災ではニチレイグループ各社も被害を受け、特に東北地方では業務停止を余儀なくされた事業所が多数発生しました。しかし、被災した事業所従業員の必死の復旧作業や、全国ニチレイグループの仲間の知恵と汗を結集した支援活動により、物流拠点の立ち上げ、生産工場の稼働再開な

どを早期に実現することができました。

私たちニチレイグループは、食の安定供給という大きな社会的使命を担っています。震災の被災から得た数多くの教訓をもとに、従業員の安全確保を第一義とした上で、防災体制、事業継続計画、被災地支援策などの見直しをさらに推し進めます。

### 「6つの責任」を守り続ける

企業の根元的な存在意義は、事業活動を通して人々の生活や社会に寄与していくことにあり、ニチレイグループのミッション、ビジョンを正しい手段で実現していくことがCSR活動にほかならないと考えています。

当社グループは、CSRの基本方針として、「新たな顧客価値の創造」「働きがいの向上」「コンプライアンスの徹底」「コーポレートガバナンスの確立」「環境への配慮」「ニチレイらしい社会貢献の推進」という「6つの責任」を掲げています。これは、時代を越えて私たちが守り続けていく皆さまへの約束であり、あらゆる事業活動の基盤となるものです。

私たちの経営は、時代の変化を見極め、社会の要請に真摯に対応しながら、着実に「6つの責任」を果たしていくものだと考えています。

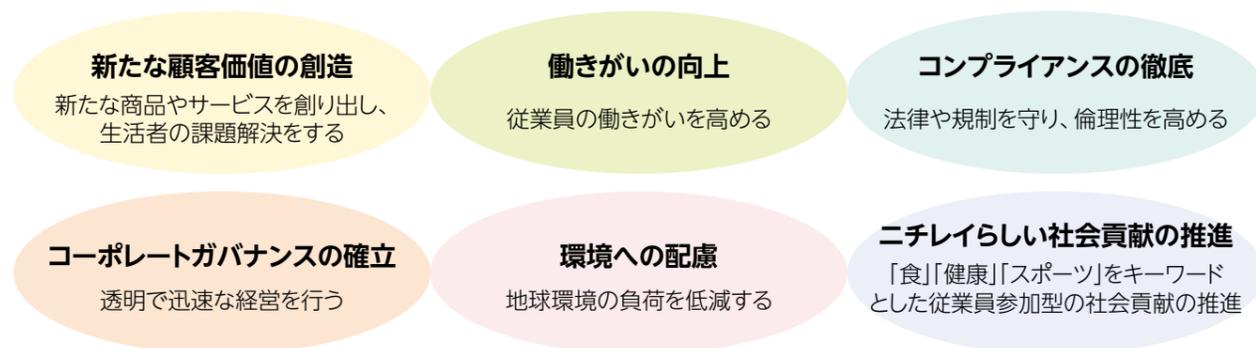
### 食の安全・安心・安定のために

このたびの東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故を受け、食品業界を取りまく環境は非常に厳しいものになっています。生活者の“食”を担う企業として、ニチレイグループが安全管理に万全を期すことは当然の責務です。当社グループでは、品質保証基本方針および品質管理規程に沿って、各事業会社の事業内容に応じた品質保証活動を行っています。グループや各事業会社の品質保証委員会が品質マネジメントの視点から商品・サービスを審査し、お客様の声を共有して、品質保証体制の継続的な改善に努めています。

ニチレイフーズでは、これまで品質保証部による生産工場の監査を実施していましたが、2012年度より社長直轄の「品質監査室」を独立した部署として新設し、監査業務を移管しました。これにより社内の品質保証監視機能がさらに強化されます。

また、当社グループの取り組みを皆さまにダイレクトにお伝

#### ● ニチレイグループ6つの責任



えたいと考え、本CSRレポートでは、各事業会社の品質保証担当者や販売担当者が食の安全と信頼について議論した様子を掲載しています。

「食の安全・安心」に加えて、生命の源である食料資源の安定供給も、当然の責任として取り組んでいます。今後も品質管理体制の一層の強化を図るとともに、グループ内はもちろん、サプライヤーなどビジネスパートナーとの情報共有、お客様への迅速かつ正確な情報公開に努めていきます。

### 働きがいの向上はCSの源泉

ニチレイグループは、「顧客満足は従業員満足から始まる」との考えのもとに、「働きがいの向上」に力を入れています。従業員が自分の会社や職場に不満を持っている、お客様やステークホルダーの方々を満足させることはできないからです。

そこで、各事業会社ごとに定期的に従業員満足度調査を実施し、その調査結果を活かした「従業員重視の職場づくり」を実践すべく、各社・各事業場の実情に適した改善施策を立案・実行しています。

2011年度はニチレイフーズとニチレイフレッシュで、ミッション・ビジョンの再制定や人事制度の改定を実施。加えてニチレイフーズでは、それらを従業員へ浸透させるため、経営層自ら全国の事業所を巡回しました。また、ニチレイロジグループでは従業員満足度調査の実施方法を、従来のアンケート形式からインタビュー形式に変更しました。具体的な取り組みや現場の生の声を踏まえた「働きがい向上につながる

#### ● 中期経営計画 “energy 2012” (2010年度～2012年度)

- ① 収益力を向上させ、適正な経営資源の配分により持続的なグループの成長を実現
- ② 成長機会を迅速に捉え、基幹事業会社の自立的成長を推進
- ③ 「食の安全・安定」という価値の提供を通じて社会からの信頼を獲得
- ④ 経営品質のさらなる向上に取り組み、グループ競争力の源泉を強化
- ⑤ 新規技術に関する情報収集分析力を強化し、グループの持続的成長に向けた新規ビジネスモデル創出につなげる
- ⑥ 資本政策の一環として自己株式取得を検討
- ⑦ 退職給付制度を再構築

おすすめアクション集」を作成したことによって、さらに一歩踏み込んだ「働きがいのある職場づくり」の活動につながっています。

企業の成長とは、従業員一人ひとりの成長の総和であると考えています。従業員が明るく働きがいのある職場で日々努力をし、成長・達成感を味わうことで、さらに働く意欲、働きがいが増していき、その結果が組織力の向上、ひいては企業の成長につながるものと信じています。

「6つの責任」を果たしていくための主役は、第一線のお客様と接している従業員にほかなりません。一人ひとりの従業員が働きがいを感じ、強い使命感を持って仕事に取り組んでこそ、CSR活動の確かな実践、さらなる進化につながるものと考えています。

### 今、地球環境のためにできること

2011年度は、電力使用規制が実施されるなど、「エネルギーと資源問題」が日本、そしてニチレイグループにとって大きな課題であることが再認識された年でした。

ニチレイグループは、資源・環境保護を経営の重要課題と捉え、「グループ環境方針」「グループ生物多様性方針」を策定し、各事業会社の事業特性に合わせた取り組みを実施しています。特に、気候変動は自然や生物にも大きな影響を与えることから、地球温暖化問題については国内グループ全体のエネルギー起源のCO<sub>2</sub>排出総量削減目標を掲げ取り組んでいます。

2011年度は、前年度に比べ生産量が増加したことなども

あり、目標である2009年度比2%削減を達成することはできませんでしたが、夏季の節電や省エネ設備の導入などによる改善は着実に進んでいます。また、家庭での節電を推進するため、従業員向けのキャンペーンも夏季と冬季の節電要請にあわせて実施しました。

2012年度は、原子力発電所の再稼働が困難な状況で電力不足や発電コストの上昇が危惧されるため、従来以上に省エネ、電力の有効活用に積極的に取り組んでいく方針です。

2012年は、国連持続可能な開発会議「リオ+20\*」の開催、日本の新たなエネルギー計画の策定などが予定されています。ニチレイグループも国際動向を注視しながら現状の活動を見直し、役割を果たしていければと考えています。

2012年度は、ニチレイグループの中期経営計画“energy 2012”の最終年度を迎えます。「昨日よりも今日、今日よりも明日へ」と成長の意思を強く持ち続け、計画目標の達成に向けて、グループの全従業員が協働し、将来の飛躍を見据えて次なる一歩を踏み出していきます。

今後も「6つの責任」に基づいたCSR活動に積極的に取り組むことで、ステークホルダーの皆さまから広く好感と信頼を寄せられる企業として成長を続けてまいります。皆さまの変わらぬご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

※ リオ+20：「国連持続可能な開発会議」1992年リオデジャネイロで「国連環境開発会議(地球サミット)」が開催され「環境と開発に関するリオ宣言」やリオ宣言を具体化するための行動計画である「アジェンダ21」が採択され、今日に至る地球環境の保護や持続可能な開発の考え方に大きな影響を与えました。リオ+20は、1992年の地球サミットから20周年を迎えるのを機に、同会議のフォローアップのために開催されるものです。

# 安全・安心を絶対に守り抜く。

調達から生産、販売、物流まで、ニチレイグループでは各事業会社がそれぞれの事業特性に応じた品質保証体制を構築し、安全・安心な商品を皆さまのもとにお届けしています。今回はグループ各社の社員が集まり、品質保証の取り組みについて語り合いました。お客様からの信頼をさらに確かなものにするために、それぞれの現場で、ニチレイグループの社員が日々何を思い、何に取り組んでいるのかをご紹介します。

## グループ全体、各事業会社、そして現場の一人ひとりが品質に責任を持つ

**田中** ニチレイ品質保証部では、事業会社が販売する商品について、ブランド審査を行っています。品質・衛生面についての工場審査と商品審査を実施し、合格した商品だけをニチレイブランドとして販売することができます。商品審査には具体的に商品表示内容、微生物検査、残留農薬分析、動物用医薬品分析、アレルギー検査などがあります。

また、グループの品質保証に関する施策や方針の企画・立案も、ニチレイ品質保証部の重要な活動のひとつです。グループ品質保証委員会がその内容を審議し、ニチレイ取締役会で承認されると、ニチレイグループの品質保証に関する

施策・方針が確定します。ここで確定した施策・方針に従って、グループ各社が品質保証活動を進めていくことになります。

事業会社によって扱う商品・サービスも異なりますから、具体的な取り組みについて

は、グループ品質管理規程に基づいて、各事業会社はそれぞれの事業特性に合わせた品質管理規程を細かく設定しています。ニチレイ品質保証部でも整合性の確認を行うなど、相互に連携を取ってグループの方針を共有しな

株式会社ニチレイフレッシュ  
水産事業本部 えびグループ  
チームリーダー  
伊藤 豊

株式会社ニチレイフレッシュ  
企画管理本部  
品質保証グループリーダー代理  
奥河 卓司



ら、各社最適な形で品質保証活動を展開しています。

**奥河** ニチレイフレッシュは、養鶏事業から、生鮮の畜産物、養殖や天然の水産物、それらの加工品まで極めてバラエティに富んだ種類、加工度の商品を取り扱っているため、お取引先様も多岐にわたっています。

また、海外に供給ソースの幅を広げていくと、日本ほどインフラが整っていない国や地域から調達するケースもあるため、新規の商品を扱う場合は、さまざまなリスクの分析・評価を行い、必要に応じて私たちが現地に出向いて品質管理体制のチェック・指導を行い、取り扱いの可否を判定しています。

養殖水産物・畜産物については、養殖・飼育段階からの

# それがあらゆる信頼の源泉



株式会社  
ロジスティクス・ネットワーク  
品質管理部長  
戸田 司郎

株式会社ニチレイフーズ  
品質保証部  
食品安全グループリーダー  
山田 太郎

株式会社ニチレイフーズ  
営業本部 広域営業部  
第二グループリーダー  
相庭 理香子

株式会社ニチレイ  
品質保証部  
副部長  
田中 修一郎

飼育管理、環境整備を基本としていますが、商品によっては信頼できる外部検査機関にて輸出前にも検査を行い、お客様に安心して召し上がっていただける商品をお届けすることに努めています。

**伊藤** 調達にあたって大切にしているのは、決して人任せにせず、必ず私たちが自ら生産現場に足を踏み入れて、安全・安心を含めた全体の仕組みを確認する「現場主義」であることと、調達先から単に物を買う・仕入れるだけでなく、環境に配慮した持続可能な生産でその地域・生産者が成長していける取り組みが重要と考えています。海外からの調達・品質管理は我々が現場で確認すべき責任があり、ひたすらお客様のために、安全・安心を担保し続けていきます。

## 自信を持って安全・安心といえる商品をお客様の手元に確実に届けていきたい

**山田** ニチレイフーズには、お客様に対する3つのお約束があります。

そのひとつが「品質管理のレベルをさらに高めます」というもの。現在、原料調達から出荷までの一連の仕組みをHACCP\*方式に準拠した体制で構築しています。直営工場を中心に培われたノウハウは、協力工場に展開して品質保証体制を強化する

\*HACCP(Hazard Analysis and Critical Control Point): 食品製造の際、工程上の危害を起す要因(ハザード: Hazard)を分析し、それを最も効率よく管理できる部分(CCP: 重要管理点)を連続的に管理して安全を確保する食品衛生管理手法。



ほか、新たな人材教育を行ったり、体制の見直しや改善を進めています。

直営を含めたすべての工場は、ニチレイ品質保証部のブランド審査を受ける以外にも、(社)日本冷凍食品協会や取引先である大手流通各社様など、社外の厳しい監査を受ける機会も多くあります。さらに本年度からは、ニチレイフーズ内に社長直轄の独立した監査部門を設置し、さらなる進化を続けています。

このほか、生産工場では、品質保証、労働安全、生産管理などに関する自分たちの取り組みを他の工場に紹介する「いいこと活動」を展開しています。情報を共有し、互いにレベルアップを図っています。

**相庭** 「世界で最も信頼される食品企業を目指します」というのがニチレイフーズのビジョンです。食品は生命に直結するものですし、特に私たちが扱っている商品は日常的に家庭の食卓に上がるものばかりです。長年かけて築き上げた信頼も、何かあれば一瞬で崩れてしまいます。営業の立場としては、信頼される企業であり続けるには、安全・安心は必須の課題であると日々胸に刻んでお客様と向き合っています。

**戸田** これまでのお話にあった安全・安心に徹した原材料や商品の品質を損なうことなく、生活者のお手元に届けるという最後の役割を担うのが、物流になります。

ロジスティクス・ネットワークの品質保証活動の一例として、高級アイスクリームメーカー様との取り組みを紹介します。この商品は、規定温度を超えてしまうと滑らかな食感が損なわれてしまうため、保管時、配送時の厳しい温度管理が要求されます。そこで冷蔵倉庫や配送車両の装備はもちろん、商品の荷さばき室を低温化したり、商品滞留時間や積み込み時間を制限して温度上昇を防ぐなど、取り扱い作業手順まで細かく規定した輸送マニュアルを完備しています。また、乗務員と車両は登録制にして、メーカー様主催のセミナーや社内の安全

講習などを行っています。

さらには、大切な商品をお預かりしていることから、保管や仕分けを行うセンターでの5S、すなわち「整理、整頓、清掃、清潔、躰(習慣)」を徹底しています。事業所内でのチェックのほか、品質管理部でも定期的な監査に加え、必要に応じて店舗での納品状況やセンターでの夜間作業のチェックを行い、ルール通りに運用されているかを確認しています。

**田中** 昨年の東日本大震災の影響でいえば、最も大きな課題は、放射能汚染に対する社会的な不安といかに向き合っていくかという点です。放射性セシウム137であれば半減期が約30年と言われていまして、今後も長きにわたって適切に対処していくことが必要でしょう。当社は、昨年5月には放射能の自主検査に関するガイドラインを確立し、11月には検査機器のNaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータを導入し自社での検査体制を構築しました。こうしたことを粛々とやっていくのが品質保証、品質管理の仕事ではないかと思っています。

### 東日本大震災に直面して 改めて自分たちの使命を痛感

もはや食の安全は当たり前のことで、安全を安心に変えていくこと。さらには、それを信頼に高めていかなければいけません。「この商品は安心だね」というレベルに留まらず、「ニチレイなら信頼できるね」と思っただけの存在になることを目指していきます。

そのためには、これまで以上にお客様に対しての情報提供が非常に重要になるでしょう。お客様の求める情報を丁寧に、的確に提供していくことによって、地道に信頼を構築していくことが大切だろうと思っています。

**相庭** 震災後の一時期、食品全体が品薄になった中で、今まで冷凍食品を使っていなかった方々が、改めて冷凍食品に関心を向けていただいた面もあります。また、放射性物質への懸念が広がる中、履歴を正確にトレースできる冷凍野菜は、

一定の伸びを続けています。これも震災の影響と言えるかもしれません。

**山田** コールドチェーンというエネルギーを必要とする冷凍食品は、震災直後の極限状態では、なかなか機能しない一方、相庭さんが話したように、しばらく経って生活の落ち着きが少し戻ってきたときには、改めて見直されたのも事実です。「こんなに便利なものがあつたのか」というお客様の声もたくさん聞こえてきました。冷凍食品や加工食品を通じた貢献のあり方に、新たな示唆を得たような気がしています。

**相庭** 当時を振り返ると、営業として何が一番大変だったかといえば、物があっても届けられなかったということです。個人的には、物流網の大切さを改めて感じた経験でした。お客様もさまざまな手段を駆使して対応されていましたが、震災以降、物流の仕組みの再構築に取り組んでいる企業も多いように感じています。

**戸田** 我々自身、物流の重要性をこれほど肌で感じたことはありません。ロジスティクス・ネットワークも仙台の物流拠点すべてが大きな被害を受け、センター機能が止まってしまいました。しかし、被災地への食品の配送は、全国ネットワークの強みを活かして、いち早く立ち上げることができました。当初は北海道の拠点から青森、秋田、岩手を経由した配送を準備する一方で、関東からは日本海側から福島へ入るルートを見つけて、いち早く納品することができました。

**伊藤** 震災の影響もさることながら、安全・安心に関するお客様の視線は、年々厳しくなっています。私たちも日々勉強を重ねていかなければなりません。特に震災以降は、放射性物質に関する知識も必要になりました。タイにおいても日本から水産物を輸出する際には検査証明書を求められています。安全・安心を確保するために、日々レベルアップ、パワーアップ、ス

### ニチレイグループの総力を結集して これからの私たちにできること

このような使命を達成するためには、厳正な検査体制が必要ですし、そのひとつひとつの安全性について、しっかりと情報提供してゆきたい。

ピードアップしていかなくてはならないことを身に染みて感じています。

**奥河** 取り扱う商品やサービスは各事業会社で異なりますが、品質管理の原理・原則は同じですし、現状でも品質管理規程等グループ共通の枠組みで進めているところは数多くあります。放射性物質問題の対応事例のように、フードチェーン全体

に影響する問題については、グループとしての相乗効果を最大限に発揮していくことが特に重要だと思います。

**山田** ニチレイフレッシュは、ニチレイフーズの原材料調達先のひとつでもあります。ニチレイフレッシュのノウハウを我々の原材料調達に活かしたり、農業や、動物用医薬品管理のあり方などの情報共有もありますし、いろいろな意味で、グループの相乗効果は発揮されているのではないのでしょうか。

**戸田** ロジスティクス・ネットワークでは、グループ以外のさまざまなお客様の商品を取り扱っていますが、各社のノウハウを積極的に取り入れていくことで、ニチレイグループの物流会社としてより厚い信頼を得られるものと考えています。グループとしての強みを最大限に発揮していければと考えています。

お客様に納得していただける体制を整備し、丁寧な説明を重ねていくことで、心から信頼される企業になっていければと思っています。

お客様に納得していただける体制を整備し、丁寧な説明を重ねていくことで、心から信頼される企業になっていければと思っています。

お客様に納得していただける体制を整備し、丁寧な説明を重ねていくことで、心から信頼される企業になっていければと思っています。



# 世界に笑顔のあふれる食卓をお届けするために

ニチレイグループの海外事業は1955年にアメリカ領サモアのマグロ基地事業から始まります。以来、当社グループは世界中にネットワークを広げてきました。現在ではさまざまな商品やサービスを欧米、アジアなどのお客様にお届けしています。

当社グループは生活者の皆さまに新鮮で健康な美味しさをお届けし、笑顔のあふれる食卓を創り出していくことが使命であると考えています。

そのためには、食の安全・安心という価値をお届けするのはもちろん、生命の源である食料資源の安定供給や、環境

に配慮した持続可能な事業活動が、当然の責任と考えています。人口の増加、新興国の経済的な発展などにより需要が急激に膨らむ一方、天候不順・干ばつなどによる供給力の低下などから食料の需給バランスが崩れつつあるともいわれています。また食に携わる企業にとって自然の恵みは活動の源であり、この恵みを安定的に受け続けるために、持続可能な取り組みが大切です。

当社グループは世界の人々から信頼される真のグローバル企業として、食の安全・安心・安定を通じ、世界に貢献していきます。

## ニチレイフーズ

### ベトナムでアセロラの育種研究、栽培指導、品質管理を実施する研究所を設立

アセロラ原料事業をグローバルに展開している(株)ニチレイスーコは、ベトナムのパートナーHiepPhat(ヒップファット)社の創業者である、Lam Dang Trung(ラム・ダン・チュン)氏との共同出資により、アセロラ栽培研究を目的とする「Nichirei-HPC有限責任会社」を2011年8月に設立しました。また2012年3月には政府科学工芸省より研究所ライセンスを取得し、同年5月、研究農園と研究棟が開業しました。

この研究農園の所在地は、ベトナム南部メコンデルタのティエンザン省で、フランス植民地時代の100年ほど前、原産地であるフランス領カリブ諸島からアセロラ原木が導入された地域です。アセロラは約20年前から原料として日

本に輸入されていますが、中長期的な視点から「育種研究」「栽培指導」「品質管理」を目的とする栽培研究所を設立しました。

「育種研究」では、

長期的なテーマとしてブラジル研究農園で培ったノウハウをもとに、ベトナムアセロラの品種改良を行います。

「栽培指導」では中期的なテーマとしてベトナムアセロラの収穫性の向上と安定を図ります。

「品質管理」では日常業務としてニチレイスーコが輸入するアセロラ果汁の原料果実の品質管理機能を担います。

ブラジルにおけるニアグロ社研究農園と同じく、地域社会に溶け込み、収穫量・輸出量の拡大を図りながら、農家の栽培技術向上を支援し、地元農業の振興に貢献する、という企業意思が、現地政府関係者からも大きな歓迎を受けています。



栽培研究所

#### 会社概要

会社名	ニチレイ-HPC有限責任会社 (Nichirei-HPC Company Limited)
所在地	ベトナム社会主義共和国ティエンザン省 ゴコンドン郡ビンギンシャ
設立	2011年8月
資本金	120億ドン≒60万米ドル
従業員数	10名

## ニチレイフーズ

### 中国における良質な農産加工品の安定調達と高付加価値商品の開発

世界人口の増加に伴う需要の高まりや、昨今の世界的な天候不順に起因する農作物の不作により、野菜の安定的な調達が難しくなっています。

ニチレイフーズは、商和興業\*と共同で中国において農産物の栽培から携わり生産ノウハウを蓄積し、安全・安心で良質な農産加工品の安定調達と付加価値の高い商品の開発・生産を行う泰安佳裕(たいあんかゆう)食品有限公司を設立しました。

日本にとって中国はアメリカと並び主要な農産物の調達国です。新会社のある泰安市には大規模農場が存在し、農業管理に対する意識レベルが高く、ニチレイフーズが掲げている「食の安全・安定」を実現するため良好な立地です。

将来的には日本への販売にとどまらず、中国や第三国に対する販売を視野に入れて事業展開していきます。

\*商和興業：各種野菜品中心の製造・輸出入を営む台湾の有力企業

#### 会社概要

会社名	泰安佳裕(たいあんかゆう)食品有限公司
所在地	中華人民共和国山東省泰安市岱岳区夏張鎮
設立	2011年5月
資本金	4,000千米ドル
生産開始	2012年6月
生産予定品目	ブロッコリー、インゲン、サトイモ、エダマメ、ミックス野菜等



自営農場

## ニチレイフーズ

### 中国の合併会社で商品開発や調理加工技術を提供

ニチレイフーズは2011年3月に、(株)ジェーシーコムサ、中国の海通食品集团有限公司の3社合併で上海市に日爵海(リージェーハイ)食品貿易(上海)有限公司を設立し中国の外食市場への事業展開を進めています。近年、中国外食市場は外資の主導により発展し続けており、有力チェーンによるシェア拡大が着実に進んでいます。このような環境の中、ニチレイフーズの商品開発力や調理加工技術、ジェーシーコムサの外食産業を幅広く展開している運営面や商品企画、また海通食品の中国における経営ノウハウや円滑な市場参入の実現と、各社の強みを活かした提携は大きな相乗効果を生み出します。中国国内に生産拠点を有

している海通食品とニチレイフーズは今後、加工食品の需要が更に大きく膨らむ中国外食市場に商品供給を行っていきます。

#### 会社概要

会社名	日爵海(リージェーハイ)食品貿易(上海)有限公司
所在地	中華人民共和国上海市松江区新橋鎮
設立	2011年3月
資本金	2,000万円
事業内容	冷凍食品・レトルト食品の企画、販売、輸出入
従業員数	4名

ニチレイフレッシュ

安全・安心で高品質な日本流の商品をベトナムの食卓へ

若く豊富な人口を抱えるベトナムでは、高い経済成長に伴い、良質な動物性たんぱく源が必要とされ、畜肉消費量が年々増加しています。一方、共働き世帯の割合が高く、従来の公設市場から利便性が高い量販店への転換の流れもあることから、より簡便で栄養バランスも良く、温度・品質管理されたチルド加工商品が求められる状況になってきました。

このような需要に応えるため、2010年12月に信州ハム(株)、豊田通商(株)との合併で、SHINSHU NTを設立し、2011年5月から本格的な販売を開始しています。購買力の増した都市部の中間所得層から富裕層に向けた新しいチルド畜産加工品市場を開拓し、安全・安心で、高品質な日本流の商品をベトナムの食卓へ広めたいと考えています。ベトナムと日本は食文化が似ていると言われ、日本がこれまで培ってきた商品の製造技術を活用し、現地畜肉加工メーカーで委託生産した商品を、ベトナム南部ホーチミン市中心に販売しています。ニチレイフレッシュは日本国内での畜産品販売の経験を活かして、販売の支援を担当し、量販店などへの商品・売場提案や生活者の皆さまへの広告・販売促進活動などを行っています。

会社概要

会社名	SHINSHU NT Co., Ltd. (シンシュウ エヌティ カンパニー リミテッド)
所在地	ベトナム社会主義共和国Dong Nai省
設立	2010年12月27日
資本金	6,500百万VND(約30百万円)
事業内容	ハム・ソーセージなどの食肉加工製品製造委託・販売
従業員数	10名

VOICE

(株)ニチレイフレッシュ 海外事業推進グループ  
マネジャー 宇津木 邦友

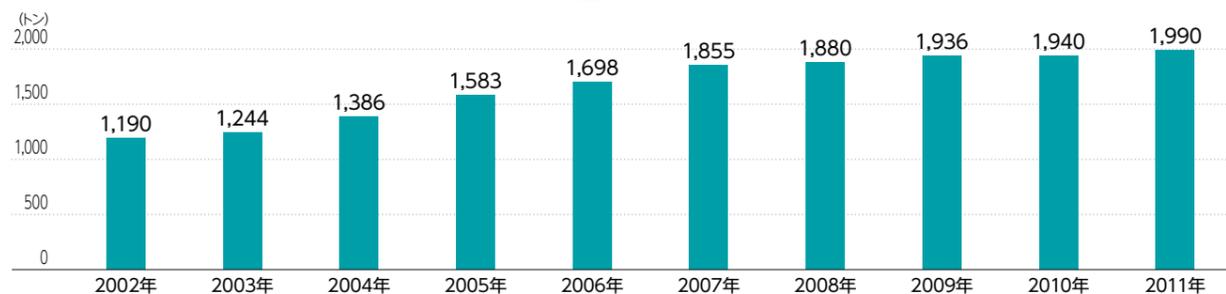


毎月、長い時には3週間以上現地へ出張し、量販店での試食販売や現地営業スタッフへの教育をしています。英語が通じないことが殆どで、直接コミュニケーションができないのが悩みの種です。ただ私が日本語で「いらっしゃいませ」とお客様に話しかけることで、物珍しさもあり足を止めてくれる方が多く、日本人が関わっている商品=高品質というイメージを伝えることができていると思います。これまでにない、より良い商品を紹介できるやりがい、志を持って挑戦しています。現場で触れ合うとベトナムの皆さんは本当に積極的に好奇心に溢れ、あらゆることに貪欲なので、こちらも新鮮な刺激を受け、納得いただけるまで真剣に語り合っています。



(左)陳列された商品  
(右)試食販売の様子

●ベトナムの豚肉消費量推移



出典：USDA: PS&D Online October 2011; USBC: International Data Base, October 2006 Livestock and Poultry; World Markets and Trade

ニチレイロジグループ

海外でも選ばれる確かな物流品質と持続可能な物流を提供するために

《欧州の物流事業》

ニチレイロジグループの海外事業は、1988年のオランダ進出から始まり、ニチレイ・ホールディング・オランダB.V.の傘下に、冷蔵倉庫、低温輸送事業を含め6社を保有(2012年2月現在)し、ロッテルダムを中心にそのサービス圏を拡大しています。

欧州域内の物流は、インフラが整備され、トラック輸送が中心となっています。近年、環境配慮への取り組みとしてモーダルシフト(Modal Shift)が推進されています。これは、トラックによる幹線貨物輸送を大量輸送が可能な海運や鉄道へ移行することを言います。

一般的に、コンテナ船がロッテルダム港に入港すると、コンテナヤードでコンテナを一つひとつ船から降ろし、トラックで倉庫へ運びます。

コンテナ船は年々大型化しており、大きい船では40フィート\*コンテナを5,000本超積むことができます。トラック輸送では車両5,000台を使用することになり、相当量のCO<sub>2</sub>を発生させます。

そこでオランダのヒワ・ロッテルダム・ポート・コールド・ストアーズ社では、CO<sub>2</sub>削減のためバージ船を活用しています。バージ船とは、河川を航行できる運搬船です。同社の倉庫は岸壁に隣接しているため、バージ船利用が可能であり、大量のコンテナをコンテナヤードから倉庫まで運び、トラック利用を極限まで少なくしています。バージ船1隻でコンテナ25本を積むことができ、トラック25台で運ぶ場合と比較すると、バージ船1運航当たり約3.5トンのCO<sub>2</sub>削減が可能です。

VOICE

(株)ニチレイロジグループ本社  
海外事業推進部 マネジャー 境田 博幸



ニチレイロジグループは、「選ばれつづける仕事。」をブランドスローガンとし、同じスピリットを海外事業所と共有しています。競争が激化する中、物流品質を高品位に維持するだけでなく、環境へ配慮することにより、お客様、そして社会から選ばれつづける仕事を目指しています。

す。現在、ロッテルダム港湾局の専用バージ船2隻にて運営されています。

また、フランスにあるゴドフロア社は70台のトラックと倉庫を保有する会社です。運送部門では、環境への取り組みとしてドライバーへのエコドライブ教習を2011年度より導入しました。また、倉庫部門においては、社会貢献活動として、保管商品で期限切れに近いものを荷主様の了解を得て慈善団体に寄付しています。

※40フィート：12.192m

《中国の物流事業》

上海市で量販店向けの冷蔵倉庫業務と、輸配送業務を実施しています。日系企業のお客様に安心していただける、確かなサービスを提供しています。

上海鮮冷運有限公司は2012年4月に冷蔵庫の増設が完了し、引き続き高品質な物流をお客様に提供し続けると同時に、環境、安全へも配慮しています。

●廃棄物のリサイクル

同社の配送センターでは1個単位の小分け業務を行っています。配送センターから店舗までの物流は何度も同じ箱を使う「通箱」を使用し、段ボールの削減につなげています。また不要物は、段ボール・紙類・ビニール類に分別し、年間約75トンのリサイクルして環境に優しいセンター運営を行っています。

●安全教育推進

ドライバーへの安全教育実施のため、地元警察を招き、定期的に安全教育を実施しています。また、全車輛にGPS(全球測位システム)端末を設置し、走行速度をモニタリングし、事故の削減に努めています。



バージ船

# 食の安全・安心

http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/env2012/food/food\_01.html

ホーム > CSRレポート2012 > 食の安全・安心

## 品質保証に関する基本方針

1. 食品衛生法、農林物資の規格化及び品質表示の適正化に関する法律等の食品関連法令、その他事業関連法令により要求される事項を遵守すること。
2. グループ品質管理規程で定める品質保証に関する要求事項を、グループ全体で遵守する
3. 食品の安全・安心に対する生活者・取引先の要求事項を確実に把握し、グループ全体の品質保証力を継続的に高めること。

とともに、製造委託先に対しても遵守させること。

## グループの品質保証 ～食品安全センターの取り組み～

### ● 食品安全センターの役割

ニチレイグループでは、グループ品質基本方針および品質管理規程に沿って、各事業会社の事業内容に応じた品質保証活動を行っています。ニチレイ品質保証部食品安全センターでは、グループの検査・分析部門として、各事業会社の品質保証活動が、適正に機能しているかを検証しています。また、事業会社が扱う中国産製品の安全性確保のため、中

国山東省にある錦築(煙台)食品研究開発有限公司と連携し、原料や最終製品の検査を実施しています。食品安全センターでは、国際的な試験所認定規格であるISO/IEC17025を取得し、また錦築(煙台)食品研究開発有限公司でもISO/IEC17025に準拠したCNAS(中国版ISO17025)を取得しており、データの信頼性が確保されています。

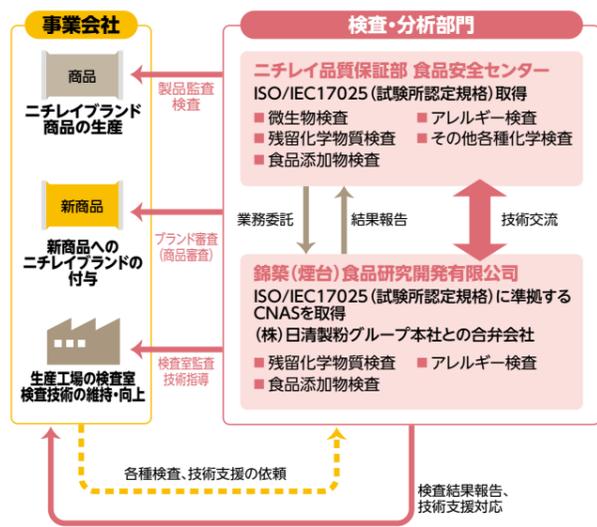
### ● 安全性確保のための検査体制

食品安全センターでは、冷凍野菜については残留農薬を、水産・畜産品とその加工品については、抗生物質、合成抗菌剤などの動物用医薬品を重点に検査を実施しています。分析結果は食品衛生法に適合しているか判断するのみではなく、たとえ基準値内の微量な検出があったときでも、事業会社にフィードバックすることで、現地での農業管理、投薬管理が適切であったかなどを調査し、原因究明、基準超過の未然防止を図っています。

農業・動物用医薬品などの残留化学物質の検査は、微量成分を探し出すための高度な技術が必要です。中国産製品についても、錦築(煙台)食品研究開発有限公司によって食品安全センターと同等レベルの検査を実施しており、食品安全センターと当社が連携することで、効果的な検査体制が構築されています。

また、2011年は東京電力福島第一原子力発電所の事故による放射能の食品汚染不安が広がりました。食品安全センターにおいても、ニチレイグループが扱う製品およびその原料を対象にNaI(Tl)シンチレーションスペクトロメータによるモニタリングを開始しています。

### ● 検査体制フロー



- ※製品監査検査: 事業会社が取り扱う製品に対して、グループの規格基準に適合しているかチェックします。
- ※ブランド審査: 事業会社が販売しようとする新商品に対して、ニチレイ品質保証部による「ニチレイブランド」付与のための審査です。食品安全センターではアレルギー検査などの商品審査を担当しています。
- ※生産工場の検査室監査: 生産工場の検査室に対して、適切に検査が実施できているか監査を実施しています。

### Web

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しております

- ▶2011年度の活動と今後の取り組み ▶グループの品質保証 ～食品安全センターの取り組み～: 外部機関を活用した技能試験
- ▶ニチレイフーズの品質保証: お客様への情報提供、品質保証組織体制の強化
- ▶ニチレイフレッシュの品質保証: こだわり素材の品質管理、輸入品の検査体制、生産工場の品質マネジメントシステム

## ニチレイフーズの品質保証

### ● 調達段階での原材料管理 (サプライチェーンマネジメント)

ニチレイフーズ素材調達部原料グループの統括のもと、製品の生産工場が「原料メーカー工場診断シート」に沿って原料供給業者の工場を診断します。この診断に合格した原料供給業者とのみ取引を行います。

取引開始後も工場診断評価点に応じた指導を行い、改善を継続的に進めています。また、素材調達部と生産工場の品質保証部門が共同で重点業者を選定し、工場診断を実施することで、より高い精度で原材料管理を行います。

原材料は3次原材料まで遡って調査し、配合割合、衛生規格・製造工程などを管理します。原料供給業者はそれらの内容を記載したニチレイフーズ指定の「原材料規格証明書」を発行します。その後、データベースに保存され、表示の作成やお問い合わせ対応などに活用されます。新規原材料の購入に当たっては、工場診断とこの証明書を確認し、サンプルをチェックしたうえで選定しています。

### ● 生産段階での品質管理の徹底

食品衛生・安全の各種関係法規およびニチレイフーズの専門ノウハウを反映した品質管理規程に基づき、生産時の品質を管理しています。さらにISO9001とHACCPをベースにした管理手法を取り入れ、生産品目ごとに工程管理基準書を中心とした製造仕様書を作成しています。製造工程における具体的な管理項目・条件を定め、それに基づき生産を行っています。また、国内直営工場を中心に展開してきた、主にトレーサビリティ用に自社開発したPAS(Product Assistance System)を一部の海外投資工場にも展開しました。トレースの仕組みが電子化され検索のスピードアップが図れるとともに、製造現場での配合ミス等も防げるようになり、作業管理の精度が向上しました。

これらの仕組みは、毎月生産工場で行われる品質保証委員会でレビューされます。さらに品質監査室による生産工場定期監査、およびISO認証機関の監査を受けています。

## ニチレイフレッシュの品質保証

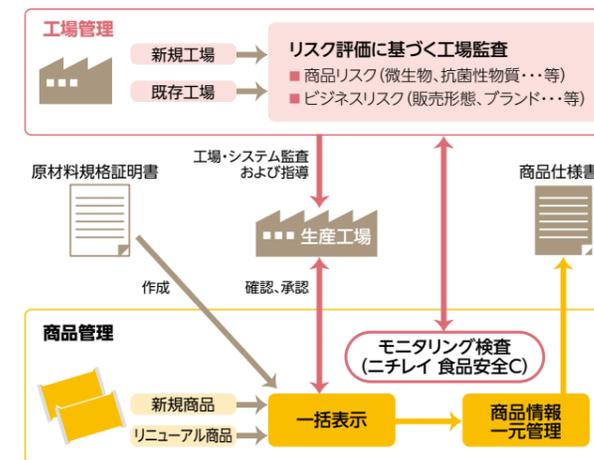
### ● 品質保証体制

ニチレイフレッシュでは、仕入先管理と商品管理を柱に、品質保証体制を構築しています。そのベースとなるのが、リスクマネジメントの視点から商品リスク、ビジネスリスクの大きさを合理的・客観的に評価する「リスク評価」です。

新規工場と取引を開始する場合は、リスク評価に基づき、事前監査を実施。既存の工場にはリスク評価に基づいて定期監査を実施し、必要に応じて指導も行います。さらに、こだわり素材を取り扱う工場や仕入先については、生産工程全般にわたるシステム監査を実施しています。

また、お客様への正確な情報提供のため、商品情報一元管理のもと、一括表示や商品仕様書の作成を行っています。さらにリスク評価に基づき、定期的に微生物・抗生物質などのモニタリング検査を実施しています。

### ● ニチレイフレッシュの品質保証体制



# 働きがいの向上

http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/env2012/employee/employee\_01.html ... ホーム > CSRLレポート2012 > 従業員のために



## 方針 (企業経営理念： 従業員により)

ニチレイグループは、従業員こそ企業発展の源であると考え、会社の仕事が従業員一人一人にとってやり甲斐のあるものであり、自己実現の場の一つとなることを願っています。同時に、従業員の個人の尊厳と個性の発揮並びに個人生活の充実を尊重します。

- ①能力開発と能力発揮の機会の提供
- ②能力と努力と成果に見合った処遇制の実施
- ③安全で風通し良く活性化された職場環境づくり
- ④性別・年齢・学歴・人種・宗教などに関する差別的な行為を防止し、待遇の機会均等を実現

## 働きがい 向上基本方針

### 「社員重視の職場づくり」

「CS向上とES向上は車の両輪である」との基本理念に基づき、ニチレイグループで働くすべての従業員が自分の職場や仕事に誇りを持ち、上司との信頼関係の下、意欲を持って働き、持てる能力を最大限に発揮できる職場環境を整備する。

### 「ダイバーシティの推進」

ダイバーシティ(異なる属性[性別、年齢、国籍等]や異なる発想・価値を認め、従来と異なる新しい考え方や価値意識を受け入れるだけの許容力を、企業革新の一つの原動力に変えること)の推進を通じて労働力(人材)の確保、従業員の働きがい・生きがいの向上、さらには新たな発想や価値の創造の実現を目指す。

## 従業員満足度調査(ES調査)

### ● グループ全体の考え方

ニチレイグループでは「顧客満足度(CS)と従業員満足度(ES)は車の両輪である」との考えのもと、各社で定期的にES調査を実施しています。調査の実施⇒調査結果のフィードバック⇒課題抽出・優先順位付け⇒打ち手の企画・実行というPDCAサイクルを回すことにより、「働きがいの向上」と「社員重視の職場づくり」を目指しています。打ち手の企画・実行については各社の社長、人事担当責任者が一堂に会するグループ人材委員会(年2回開催)で進捗を共有し、有効な施策についてはグループ各社で横展開するなどの工夫を行っています。

### ● ES調査の実施事例 (ニチレイフーズ、ニチレイロジグループ)

ニチレイフーズでは、働きがいの向上を実現するために2007年度よりモチベーションにフォーカスした調査を実施しており、今回で5回目となりました。

本年度はビジョン浸透を強く掲げていることもあり、調査項目に自由記述欄を設け、①ビジョンについてどう感じるか②会社や上司に望むこと③どのような会社にしたいか、意見を求めました。

合計で3,000件を超える記述があり、多くの従業員が食と笑顔について熱い思いを持っていることが全体で共有できました。

ニチレイロジグループでは、2005年度より従業員満足度(ES)調査を実施し、調査結果をもとに、さまざまな施策を進めてきました。2011年度の調査では、これまでのアンケート形式ではなく、現状に対しての生の声を聞き、具体的な取り組みや現場での感じ方を深く収集するため、30事業所を対象としたインタビュー形式で実施しました。

インタビューで収集した良い事例を基に、「働きがい向上につながるおすすめアクション集」をまとめ、2~4月にかけて職場懇談会や「まるコミ」などの場において働きがい向上につながる行動について議論することで、今までよりさらに一歩踏み込んだ「働きがいのある職場づくり」の活動につなげていくことを目指しました。

また、ロジグループ各社の労使協議会の場において、「働きがいのある職場づくり」について話し合っていくことで、労使が一体となった、働きがいのある職場づくりの活動を推進してまいります。

## Web

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しております

- ▶WLB基本方針 ▶2011年度の活動と今後の取り組み ▶安全で快適な職場づくり ▶一般事業主行動計画 ▶人材育成

### ●「ニチレイロジグループ働きがい向上につながるおすすめアクション集」

#### (1) 所長編

要素	すぐに取り入れたい
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●世間話など所長から話しかける</li> <li>●話しかけられるのを待たず、所長から声をかける</li> <li>●互いが見える、お客様が見えるレイアウトに(机の位置、向き、距離)</li> <li>●朝礼の司会を各部門、各自で持ち回り</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様がお見えになったら職場全体に聞こえるように率先して声を出す</li> <li>●出勤簿を所長の席の隣に置き、一声掛け合う</li> </ul>
互いの理解・尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務互換が図れる機会を設ける</li> <li>●失敗しても頭ごなしに叱らない</li> <li>●任せた仕事のフィードバックはしっかり行い、良いところは褒める</li> </ul>
評価と手応え	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様と同席する機会をつくる(1回の対面でも大きく関係が変わる)</li> </ul>
人材育成・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●マネジャーを育てる。マネジャーの働きがい向上における役割を明確に与える</li> </ul>

#### (2) マネジャー編

要素	すぐに取り入れたい
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●後輩・メンバーの話に関心を持つ(関心があることをはっきり示す)</li> <li>●自分の体験談(必要とされていると感じたエピソード)を話す</li> <li>●困ったときに相談しやすい雰囲気を作る</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>●挨拶を促すのではなく、常に自分から挨拶する</li> </ul>
互いの理解・尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>●失敗した事については、頑張ったことを認めつつ叱る</li> <li>●主張すべきことは主張するが、必ず相手の立場について一考してから主張する</li> </ul>
評価と手応え	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様に誉められたらメンバーに必ず紹介する</li> <li>●お客様にメンバー・後輩の努力を伝える</li> </ul>
人材育成・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●後輩を育てる、自分も勉強し続ける</li> </ul>

#### (3) 担当者編

要素	すぐに取り入れたい
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>●遠慮せず所長に話しかける、報告する</li> <li>●会議など自ら発言し、日々問題提起する</li> <li>●自分の言い方一つで相手の受け止め方が変わると意識して話す</li> </ul>
挨拶	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自分から率先して挨拶する</li> </ul>
互いの理解・尊重	<ul style="list-style-type: none"> <li>●業務内容や仕事のスケジュールなど最低限知るべき、相手の都合を知る</li> <li>●部下、後輩の目線に立って話しかける</li> <li>●後輩の主張を尊重して聞く</li> </ul>
評価と手応え	<ul style="list-style-type: none"> <li>●誉められたり、認められた時は、素直に喜ぶ(自分を誉める)</li> </ul>
人材育成・その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>●仕事を任せてもらえるよう知識を習得する</li> <li>●新しい事にも積極的に挑戦する</li> </ul>

### ● ミッション・ビジョン浸透施策／ 経営層と従業員との『対話』による啓発活動

ニチレイフーズは、ミッション・ビジョンを従業員と共有するため、経営層(社長および主管の役員)と従業員の対話の場『あぐら』を開催しました。コミュニケーションを活発にするために、1回当たりの参加者を少なくすることで全員が発言できるようにし、これにより部門間連携・社内風土・コミュニケーション・各部署の課題等多くのテーマについて対話することができました。これらを踏まえ、ミッション・ビジョン実現に向けた組織風土改革と業務改革に取り組んでいます。

『あぐら』は、2011年10月から2012年3月までに、国内事業所55ヶ所、参加者人数1087名、計77回実施しました。2012年度は国内に加え海外事業所にも展開していきます。

また経営層による、ミッション・ビジョンについて考える場「DAY CAMP」も実施しました。どのようにしたらニチレイ

フーズで働くすべての従業員が、ミッション・ビジョンを日常の行動に結び付けて考え活かすことができるようになるか、意見交換をしました。



「あぐら」の様子

### ● 車座集会

ニチレイフレッシュでは全国各地の事業所や関係会社へ赴いて、社長をはじめとする経営層自らが、当社の現状や今後の戦略について伝えたり、従業員と直接対話することで職場での課題を共有する等、名付けて「車座集会」を2007年から年2回実施しています。2011年度は、全国の事業所で上半期9回、下半期12回の計21回開催し、全従業員が参加しました。今後もこうした活動を通じて、社内のコミュニケーションを活発にしていきます。

また、ニチレイバイオサイエンスの車座集会は、一般・嘱託・契約社員を対象に5-10人ずつ、4回にわたり社長が参加して実施し、有意義な意見交換を行いました。

今回は、「働くことの意義」について事前に考えてもらうことが参加条件で実施した結果、「社会人として社会や会社に貢献できること」「働く理由や目的」「働くとはどういうことなのか」などについて活発な意見交換が行われ、社長を含めた同じ職場に働く仲間のことをより深く理解しあえる場となりました。今後も同程度の人数で、一般社員を中心に経営層との対話の場を設け、組織の活性化を図ってまいります。

## ミッション・ビジョン・行動指針の再制定

### ● ニチレイフーズの取り組み

ニチレイフーズの風土には、“大切に継承すべき素晴らしいもの”と今こそ“改革すべきもの”が存在しています。これらを踏まえ、2011年10月に『ニチレイフーズ風土改革宣言』をしました。

1945年に日本冷蔵として誕生して以来、私たちは食を通じて常に人々の暮らしを見つめてきました。人々の暮らしに笑顔をつくるのが私たちの誇りです。今回あわせて『ミッション・ビジョン・行動指針』を新たに制定しました。

『ハミダス』(とらわれず、明るく)をモットーに全従業員でこれらを共有し、世界で最も信頼される企業を目指していきます。

#### 企業コンセプト

『暮らしに笑顔を』

#### ニチレイフーズのミッション(使命、存在意義)

『ニチレイフーズは人々の暮らしを見つめ、食を通じて、健康で豊かな社会の実現に貢献します。』

#### ニチレイフーズのビジョン(目指す姿)

『私たちは常に独自能力を磨き、卓越した価値を創造することで、世界で最も信頼される食品企業を目指します。』

#### (お客さま・取引先に)

誠実に向きあい、独自の価値ある商品・サービスを提供し続けます。

#### (従業員に)

風通しが良い活性化された職場を提供します。

#### (社会・投資家に)

広く好感と信頼を寄せられる、グローバルに展開する企業として成長します。

### ● ニチレイフレッシュの取り組み

東日本大震災は、「食」の大切さや「食」に携わる事業者の責任、そして日本人の「誇り」「魂」「志」について、改めて考える機会を与えてくれました。

ニチレイグループの前身である日本冷蔵の「貴重な食料を確保して供給する」という創業の理念は、「日本人の長寿と健康に貢献してきた優れた動物性たんぱく質である水産品と畜産品を生活者のために安全・安心に、安定的に供給し続ける」というニチレイフレッシュのDNAとして受け継がれています。

『資源保護や環境との共生にも配慮した「こだわり素材」を差異化の起点とし、生活者価値の創出者となること』。このミッションが私たちの「志」であり「魂」です。これを「誇り」として行動すること、これこそが私たちニチレイフレッシュの「活力」の原点です。

新たに制定した「ニチレイフレッシュ企業理念」は、こうした「想い」を表しています。

#### 【ニチレイフレッシュ企業理念】

##### 【ミッション】(使命・存在意義)

『資源保護や環境との共生にも配慮した「こだわり素材」を差異化の起点とし、生活者価値の創出者となること』

##### 【ビジョン】(目指す姿)

生命と健康を支える優れた動物性たんぱく質である水産品・畜産品を、安全・安心を追求する品質保証体制のもと、お客様に最適な形態でお届けする事業を通じて、将来にわたって価値を提供し続ける企業を目指します。

##### 【行動指針】(考え方と行動の基本となる方針)

ひとりひとりの「創造性」を結集し、刻々と変化する環境に適応して、常に新たな課題と可能性に挑戦します。

- 1) 高い「志」と熱い「魂」を「誇り」に、生き生きとして自らの役割と責任を真摯に果たします。
- 2) 常に生活者の視点に立ち、「鮮度」「おいしさ」「安全」「安心」「健康」「環境にやさしい」をキーワードとする「こだわり素材」の開発と「最適加工度」による商品の提供によって、お客様の期待に応えます。
- 3) 人や社会や環境に対する思いやりと感謝の気持ちを大切に、高い倫理観をもって行動します。

## VOICE

(株)ニチレイフーズ 事業統括部  
マネジャー 吉野 達也



ミッション・ビジョン推進定着担当として、浸透を図り、明るく風通しの良い会社、働きがいのある会社を目指して、従業員の皆さんと一緒にミッション・ビジョンの実現に邁進していきたいと考えております。

## ダイバーシティの取り組み

### ● ダイバーシティ推進協議会に基づく活動

ニチレイグループ6つの責任の1つである「働きがいの向上」を進めていく委員会としてグループ人財委員会を年2回開催しています。またその下部組織であるダイバーシティ推進協議会は、労使協働で年3回開催し、協議内容をグループ人財委員会に報告しています。

2011年度はグループ各社が進めている、高齢者雇用、障がい者雇用の施策や、働き方の見直しの施策進捗を共有し、有効な施策については各社で横展開する等の工夫を行っています。また、労働組合主催の「働きがい向上委員会」の内容も共有しました。

### ● 地域限定総合職制度

ニチレイフーズは2009年度から、地域限定総合職制度を導入しました。これは総合職社員が結婚、育児、介護、傷病などの個人事由により、やむを得ず転居を伴う異動ができない場合に期間の上限を設け勤務地域を限定できる制度です。個人事由が解消した場合は全国勤務型の総合職に復帰するので、一時的な事由に直面しても、総合職としてのキャリアを中断することなく、職務を遂行できるようになりました。

2012年4月現在で39名がこの制度を活用しています。また、ニチレイバイオサイエンスでも本制度を参考にして、2009年度より類似の制度を導入しています。

### ● 障がい者雇用

ニチレイグループは、多様な人財活用の一環として、積極的に障がい者雇用を進めています。

取り組みの結果、法定雇用率1.8%を常に上回っています。2007年2月には、(株)ニチレイアウラが特例子会社認定を受け、グループ会社の食品工場や物流センターの事務所清掃業務、緑地環境整備業務に従事しています。更に東京事業所では、グループの本社機能が集中する中央区築地地区で、不要書類の分別回収業務、郵便物等集配業務および不要機密書類裁断業務等を行っています。

杉戸事業所、東扇島事業所を加えて4事業所合計で同社の障がい者雇用者数は、重度障がい者を中心に21名(うち重度障がい者16名)となっております。

また、(株)NKトランスでは、知的障がい者通所授産施設お

よびジョブコーチの協力のもと、18名の知的障がい者を雇用(沼津10名、新座8名)しています。さらに同社の沼津物流センターでは、自立支援の一環として、地域の障がい者施設で手作りした焼き立てパンを毎週1回食堂にて販売しています。

#### ● 障がい者雇用率

2011年	2.15%
2010年	2.07%
2009年	1.97%
2008年	2.00%
2007年	1.93%

### ● 労働組合「働きがい向上委員会」の活動

ニチレイ労働組合は、組合重点活動項目の1つである「働きがいの向上」を目指し、実践委員会として「働きがい向上委員会」を運営しています。“働きがい”“働きやすさ”向上のため、いきいきと働き続けられる職場環境の実現に向け“組合が推進すること”と“会社と協働で実施すること”について具体策を検討しています。また委員会のメンバーは、性別、年齢、役職にこだわらず参加しています。2011年度は、①ダイバーシティを制度に落とし込む過程で「個人の尊重」「働きがい」「働きやすさ」の視点を持つことの大切さを労使で共有②育児・介護休業取得への理解と支援策として、ロールモデルのいない職場へのアクションプランの探索③同休業取得から復職までのモチベーションや業務ノウハウ維持のためのネットワークづくりの重要性から組合情報発信ツールを改善④柔軟なライフキャリア申告制度の必要性をダイバーシティ推進協議会へ提言、等を実施しました。2012年度は分科会形式で開催し、①～④など確認した課題についてテーマ・目的別に施策の実現ができる、発展した実践委員会を目指します。



委員会の様子

# 環境への配慮

http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/env2012/env/env\_01.html ホーム > CSRレポート2012 > 環境のために



## グループ目標

ニチレイグループでは、グループ環境方針を策定し、3つの重点課題に取り組んでいます。

### 【地球温暖化防止】

グループ(国内)のエネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量  
2012年度 2009年度実績比3%削減

\*国内の事業所および所有車両で使用するエネルギー  
\*購入電力由来のCO<sub>2</sub>算出係数は2009年度固定

### 【持続可能な資源循環の推進】

食品工場、物流センターから排出される廃棄物リサイクル率99%の達成・維持

## 2011年度の取り組み状況

### ● 課題1:【地球温暖化防止】

気候変動の影響を大きく受ける“食”に関わる企業グループとして工場や物流センターなどの事業所から直接排出されるCO<sub>2</sub>の削減に取り組むとともに、事業内容とのかかわりを考えながら各事業会社が重点課題を設定し、サプライチェーン全体でのCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。

2011年度のグループCO<sub>2</sub>総排出量は2009年度比で0.5%の増加となり、2%削減を達成することはできませんでした。各事業所における従来の削減活動に加え、夏季の節電への取り組みがCO<sub>2</sub>削減に寄与しましたが、事業所の新設、自家発電燃料の使用、生産量の増加などによるCO<sub>2</sub>増加がこれを上回りました。また、従業員の家庭における節電活動を促進するキャンペーンを実施しました。

2012年度は、さらなる電力供給の逼迫も予想されることから、運転管理のさらなる見直しと徹底、省エネ対応設備の導入、夏季のピークカット対応などに取り組んでいきます。

#### ● 主な活動

調達	● 牛のメタンガス排出抑制
食品工場	● 太陽光発電、LED照明など新たな省エネ設備導入 ● 既存設備の改修時のより高効率設備への転換 ● 熱回収によるエネルギー再利用 ● 作業方法の見直し、ラインの改善などによる節電や節水
物流センター	● 新設センター、増設センターのLED照明・自然冷媒への転換
オフィス	● パソコンの省エネルギーモードへの設定、電気自動車の使用
物流	● 物流拠点の集約化による物流効率化
商品	● 包装資材の軽量化・小型化
その他	● LC(ライフサイクル)-CO <sub>2</sub> の把握

#### ● グループCO<sub>2</sub>総排出量の推移



- 上記は、CO<sub>2</sub>排出のための算出係数を2009年度に固定した場合(グループ目標管理は固定で実施)。地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算出した場合は6.1%減となります。
- 2009年度に対して事業所の増加や生産量の増加により約11,000トン増加していると推定されます。
- 昨年度の報告値に誤りがあり、一部修正しています。

### ● 課題2:【持続可能な資源循環の推進】

地球上の資源を継続的に利用していくために、サプライチェーン全体での廃棄物の発生抑制、再利用、再資源化に取り組んでいます。また、“食”とかかわる企業グループとして地球からの恵みである生物資源を効率的に無駄なく使うこと、使い切ることができなかったものも飼料や肥料などに再利用し循環させていくことにも注力しています。

各事業会社が、排出量削減及びリサイクル率の向上を進めたことにより、2011年度の事業所外排出量は35,600トンとなり、リサイクル率は99.6%となりました。現在、最終処分されている廃棄物には、紙くずなど地域によって事業系一般廃棄物の処理場が単純焼却している場合や、種類や量などによってリサイクル先が見つからない場合などありますが、発生の抑制も含めさらなる削減に取り組んでいきます。

#### Web

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しております

- ▶ 環境方針 ▶ 生物多様性方針 ▶ 2020年度に向けた目標と重点課題 ▶ 環境マネジメント体制 ▶ ISO14001の認証取得 ▶ 環境監査 ▶ 環境会計 ▶ 環境社内教育(CSRレポート説明会、環境展示会、環境e-ラーニングの実施、他) ▶ 工程残さを再利用して作る飼料 ▶ 廃食用油をボイラー燃料に使用 ▶ マイはしエコ運動 ▶ 未利用魚を活用した水産加工品 ▶ 米衣(米100%のフライ用衣材の開発) ▶ 自然や地域と共生した持続可能なえびの調達 ▶ 裏磐梯の社有地における活動

#### ● 主な活動事例

調達	● 未利用魚を活用した水産加工品の生産 ● パンの耳を飼料化し環境負荷を低減する「エコポーク」の開発 ● ベジポートにおける野菜を100%使い切り無駄な廃棄を発生させない取り組み ● 米100%フライ用衣材の開発 ● ニチレイフレッシュファームにおける飼料米活用拡大
食品工場	● 動植物性残さの発生抑制、再資源化 ● 工程残さを再利用して作る飼料 ● 廃食用油を燃料へ再利用
物流センター	● プラスチック等包装資材の発生抑制、再利用、再資源化
オフィス	● ごみの分別、紙の再利用・リサイクル、マイはしエコ運動

#### ● ニチレイグループ事業所外排出量とリサイクル率



### ● 課題3:【自然との共生】

ニチレイグループの事業は、豊かな地球からの恵みによって成り立っており、これは自然界の多様な生態系や生物種などによって維持されています。これまで左記の課題対応のほか、自然保護活動団体支援など自然との共生に努めてきました。

ニチレイグループとしてその重要性を再認識し、さらに取り組みを強化していくため、2010年度にグループ生物多様性方針を策定しました。

#### ● 主な活動事例

調達	● 自然や地域と共生した持続可能なえびの調達(抗生物質、合成抗菌剤不使用により土壌汚染防止) ● 未利用魚を活用した水産加工品の生産(資源保護) ● ベジポートにおける野菜を100%使い切り無駄な廃棄を発生させない取り組み(資源保護) ● ニチレイフレッシュファームにおける飼料米活用拡大(資源保護)
社会貢献	● 植林活動への取り組み

## マテリアルバランス

### INPUT

#### 原材料

132千トン

原料	118千トン
包装資材	14千トン

#### エネルギー

5,039千GJ

購入電力	449,914千kWh	LPG	2,856トン
重油	5,229kℓ	ガソリン(社有車)	652kℓ
灯油	1,852kℓ	軽油(社有車)	1,295kℓ
都市ガス	3,475千m <sup>3</sup>	太陽光発電	347千kWh

#### 水

3,805千m<sup>3</sup>

上水	1,218千m <sup>3</sup>
工業用水	661千m <sup>3</sup>
地下水(井水)	1,926千m <sup>3</sup>

### OUTPUT

#### 廃棄物

事業所外排出量	35.6千トン
リサイクル量	35.5千トン
最終処分廃棄物量 <sup>*1</sup>	0.1千トン

<sup>\*1</sup> 事業所外に排出される廃棄物のうち、直接処分場に埋め立てられる廃棄物およびエネルギー利用などがなく単純焼却される廃棄物の量

#### 大気系

CO <sub>2</sub> <sup>*2</sup>	217,684トン-CO <sub>2</sub>
SOx <sup>*3</sup>	21トン

<sup>\*2</sup> 地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき算出。グループ総量目標については基準年(2009年度)排出係数固定で管理。  
<sup>\*3</sup> 測定実施のばい煙発生施設。車両由来含まず。

#### 水系

排水	2,293千m <sup>3</sup>	排水負荷量	
下水道	1,447千m <sup>3</sup>	BOD <sup>*4</sup>	35トン
公共水域(河川等)	846千m <sup>3</sup>	COD <sup>*4</sup>	10トン

<sup>\*4</sup> 排水濃度測定を実施している場合のみ排出量を算出。

\* 対象事業所はWebに掲載しています。

## 食品工場におけるCO<sub>2</sub>削減

ニチレイフーズの食品工場(関係会社含む)では、安全・安心な商品の生産を行うために、加熱や冷凍、保管の過程での徹底した温度管理や設備の充実が欠かせません。

まず最初にこうした設備で使用する必要不可欠なエネルギー消費を「できるだけ抑える」ことから取り組んでいます。

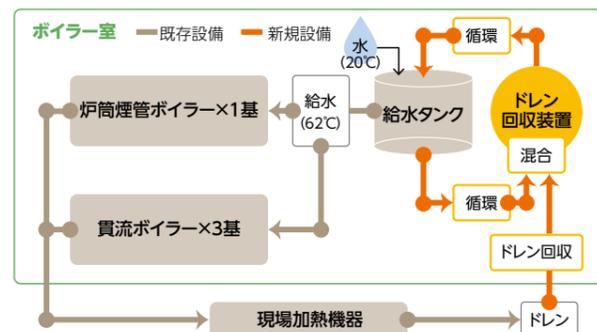
### ● できるだけ使わない(省エネ)

白石工場では、ボイラーから生産加熱機器22台へ水蒸気を供給しクリームコロッケの中種、春巻の具材を仕込んでいます。その際排出されるドレン(高温の熱水)(約33トン/日)を回収し、ボイラー補給水として再利用することにより、ボイラーへの補給水温度を平均20℃→62℃へ上げることができました。それによる消費燃料の削減で、CO<sub>2</sub>排出量は年間93トン削減されました。

また、生産現場の排水溝に放出していたドレンが回収されたことにより、温度上昇が抑えられ室内環境が改善されました。従業員からは「働きやすい職場になった」と嬉しい声が上がりました。

併せて、コンプレッサー制御管理システムの変更や、照明のLED化等の取り組みを実施したことにより、さらにCO<sub>2</sub>排出量は年間213トン削減されました。

### ● ドレン回収装置と設備概略図



ドレン回収装置



ボイラー補給水温度(左)とドレン回収温度(右)

### ● 再利用する

#### ■ 廃熱の再利用

船橋工場にて、ヒートポンプ導入による廃熱回収を実施しています。生産設備から出る排熱を、今までは空気中に放出していましたが、回収することにより設備洗浄に使用するための温水を作り出しています。

2011年11月から効果検証を始め、年間30トンのCO<sub>2</sub>削減効果を見込んでいます。

### ● 自然の力を活かす

(株)中冷では、地中にパイプを埋め、地中熱で外気を温調する設備を導入し、夏の冷房、冬の暖房に活用しています。

省エネや廃熱の再利用、太陽光の利用などの取り組みを進めた結果として、2010年、2011年の2年間合計で約3,000トンのCO<sub>2</sub>を削減することができました。これは2009年度の総排出量に対し、4.8%の削減量となります。

2012年度は、取り組んだ施策が年間通して効果を発揮するのは勿論、新たな施策を実施し、さらなる環境への取り組みを推進していきます。

## VOICE

(株)ニチレイフーズ白石工場 技術グループ  
マネジャー 八島 善勝

燃料として重油を使用するボイラー(水蒸気を発生させる装置)から排出されるCO<sub>2</sub>は、白石工場のCO<sub>2</sub>総排出量の33%を占めています。生産加熱機器等で使われた水蒸気は、凝縮してドレンに変化しそのまま排水溝へ放出されていました。そこでドレンを回収することで、ボイラー燃料削減と補給水として再利用することを狙いドレン回収装置を導入致しました。設置後2009年度対比CO<sub>2</sub>原単位約4%削減、CO<sub>2</sub>排出量は年間約280トン削減されました。今後とも継続的な省エネ活動を行い、エネルギー削減および有効活用を行いたいと考えております。



## Web

- ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しております
- ▶食品工場におけるCO<sub>2</sub>削減:太陽光の利用、緑化の取り組み ▶物流センターにおける省エネ対応 ▶グリーン電力によるオフセット(NXフォーラム、こだわりセミナー)
  - ▶オフィスの取り組み ▶技術開発センターにおけるCO<sub>2</sub>削減 ▶エコロジー委員会活動報告会の開催 ▶ボイラーの停止とエコキュートの導入
  - ▶通過式燃料改質装置の装着によるコスト削減および環境への配慮 ▶協力運送会社の取り組み ▶グリーン経営認証の取得 ▶包装資材の軽量化とサイズの見直し
  - ▶牛のメタンガス排出抑制 ▶ライフサイクル(LC)-CO<sub>2</sub>の把握 ▶PRTR対象物質の管理 ▶PCBの管理 ▶フロンの使用・管理 ▶アスベストへの対応
  - ▶土壌汚染への対応 ▶水域・大気への排出抑制

## 物流におけるCO<sub>2</sub>削減

### ● 継続的な物流効率化によるCO<sub>2</sub>削減 お客様との取り組み

(株)ロジスティクス・ネットワークは、(株)関西スーパーマーケット様の専用センターとして、尼崎物流センターで日配品・青果物・精肉等低温商品の物流業務を担っています。1995年のスタートから17年が経過し、配送店舗は27店舗から60店舗に拡大しました。この間、さまざまな物流効率化に取り組んできました。特に、環境面では店舗数拡大=配送トラック台数の増加によるCO<sub>2</sub>排出増加を抑えるために、天然ガススタンドが少なかった約10年前からお客様、運送会社様とともに天然ガストラックの導入を進めました。天然ガストラックは、従来のディーゼル車に比べてCO<sub>2</sub>排出量が20%程度少なく、窒素酸化物の排出も低減できる低公害車です。現在は全配

送車両の17%を占めています。このほかに、アイドリングストップの励行、デジタルタコグラフに基づく運行管理などエコドライブの推進も行いました。更に、発注から配達までの一括管理や専用コンテナの導入による配送便数の削減並びに積載効率の向上等、継続的な物流効率化によるCO<sub>2</sub>排出量削減に取り組みました。その結果、全体で、10年間の累積としてCO<sub>2</sub>排出量を16%削減することができました。

これらの活動が認められ、第10回物流パートナーシップ会議にて尼崎物流センターが関西スーパーマーケット様と共同で経済産業省商務流通審議官賞を受賞しました。(株)ロジスティクス・ネットワークは、これからも物流効率化を通じて環境負荷低減と物流品質向上に貢献していきます。



授賞式  
手前左: (株)ロジスティクス・ネットワーク社長 秋山真人

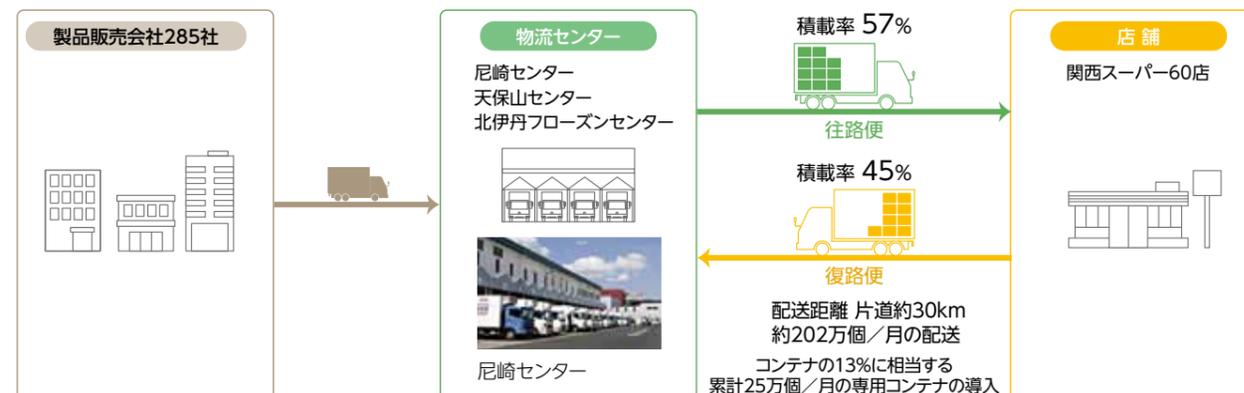
## VOICE

(株)ロジスティクス・ネットワーク 早島物流センター  
マネジャー 小沼 克良  
(2012年4月に尼崎物流センターより転勤)



物流における環境負荷削減に車輛効率化、運行数を削減することは運行コストを含め大きな効果があるので、日々運行数の削減目標のもと、車輛積載率向上や天然ガス車の積極的運用の配車管理に丸くなって取り組んできた成果の表れと感じております。今後においても環境を重視した物流効率化を目指し日々の業務に取り組んでまいります。

### ● 物流効率化によるCO<sub>2</sub>削減の取り組み



共通・専用コンテナの導入により積載率1%(前年度比)改善で配送便数の削減CO<sub>2</sub>削減効果1.7%

# 社会貢献の推進

http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/env2012/society/society\_01.html

ホーム > CSRレポート2012 > 社会のために

Web

ホームページでは、さらに下記の情報を掲載しております

- ▶ 2011年度の活動と今後の取り組み ▶ 超高齢社会に向けた食育の試み ▶ アウトオブキッザニア漁業体験 ▶ 大学への寄付講座 ▶ 植林活動への取り組み
- ▶ 地域清掃活動 ▶ フードバンクへの寄付 ▶ TABLE FOR TWOへの参加 ▶ 義援金の拠出 ▶ 物資の支援 ▶ 使用済み切手の収集 ▶ エコキャップ
- ▶ 炊き出し用原料の協力 ▶ 難病患者への支援 ▶ ミャンマーの病院などへ検査薬の提供 ▶ 京論壇への支援(東京大学と北京大学の国際討論) ▶ スポーツ支援
- ▶ インターンシップ ▶ 職場体験学習の受け入れ

## 社会貢献基本方針

わたしたちニチレイグループは、企業市民として広く社会から信頼される企業でありたいと考えます。

わたしたちは、素材を見きわめ、おいしさと健康を創り出し、安全で効率的な物流を通じて社会に貢献します。さらに、事業活動以外の分野

においても自らの誠意と共感と使命感に基づき、社会貢献活動を行います。

わたしたちは、この考え方にに基づき、食や物流に関する教育、地域貢献、環境保護、災害支援、スポーツ支援を中心に、積極的な社会貢献活動に取り組めます。

## 食育活動

### ニチレイフーズ食育プロジェクト

ふっくら、シャキシャキ、ジューシー、こんがり……。こんなことばをニチレイフーズの商品のパッケージで見つけたことはありませんか。ニチレイフーズの食育プロジェクトではこれら「食経験を通じて表現されるさまざまなことば」を「おいしさことば」と名づけ、「おいしさことば」の発信と「おいしさことば」を使った豊かなコミュニケーションの醸成を食育活動の中心にしています。このことが、食の品質を見極める力や食を選ぶ力につながると考えています。

ニチレイフーズはオリジナルの「“おいしさことば”体験ブック」を使い、大人はもちろん、子供たちも「おいしさことば」に触れ、体験しコミュニケーションを楽しむワークショップを各地で開催しています。その他、食育コミュニケーションキャラクター「ことはちゃん」を通じて、商品パッケージやインターネットで「おいしさことば」を発信しています。

今後は全国の工場や支社と共同し、より多くの場面で「おいしさことば」に触れていただき、食卓での会話やコミュニケーションがより豊かになり「笑顔の食卓」が広がる活動をしていきます。



「おいしさことば」体験ブック

### 岩手県軽米町の小学校で「純和鶏」の食育授業を実施

震災の記憶も冷めやらぬ6月28日、軽米町の小学校にて「純和鶏」を題材にした食育授業を行いました。

(株)ニチレイフレッシュファームでは生産する有機質肥料を飼料米生産に利用した循環型の生産体制を同町と推進しており、飼料米の生産は2012年度で4年目となります。

授業には生徒の皆さん・担任の先生のほか、校長先生と軽米町の山本町長もご参加いただきました。食育授業では「純和鶏」のおいしさのヒミツや、循環型の生産サイクルの説明を行うと、生徒の皆さんも興味を持って聞いていただけました。

冒頭に校長先生から「『純和鶏』は、軽米町の多くの農家さんが丹精こめて育てた“飼料米”を食べて育てています」というお話があったこともあり、生徒の皆さんには地域の食材と地域の基幹産業である農畜産業に対する理解が深まったことと思います。

ニチレイフレッシュグループとしても、今後もこのような地域の方とのふれあいを大切にしながら、魅力ある事業展開を進めて参りたいと思います。



授業の様子



「純和鶏」のタンダーチキン

## 物流に関する教育

### 小中学生 社会科見学の受け入れ

ニチレイロジグループでは、周辺地域の小中学生を中心とした校外学習を継続的に受け入れています。

(株)ニチレイ・ロジスティクス東海では、2012年1月に名古屋市立南陽中学校から4名の生徒を受け入れました。総合学習の一貫として、『環境問題に積極的に取り組んでいる企業』へということで、当社へ依頼がありました。見学のなかでは、事業紹介、CSRレポートを使用して環境に対する活動の紹介、生徒さんからの質問への回答を行いました。また隣接の白鳥物流センター構内の見学を行い、生徒さんたちは冷蔵庫



見学の様子

の大きさや庫内の温度を体感し驚いていました。当社の環境への取り組みや事業について知ってもらう良い機会でした。また、ニチレイフーズより冷凍食品の試食やお土産を提供し、ニチレイグループのアピールもできました。

## VOICE

株式会社ニチレイ・ロジスティクス東海  
企画管理部 勅使 り子



社会貢献として地元学校の校外学習の受け入れをしております。また当社事業や社会活動をより知っていただく良い機会と捉えております。今回初めて担当させていただき、どのように対応したらわかり易くお伝えできるか苦慮しましたが、学習を終えて生徒さんから環境問題を身近に考え取り組むきっかけとなったとお礼のお手紙をいただくことができました。次年度も依頼がありましたら継続する予定です。

## 東日本大震災 被災地での支援活動事例

### 石巻・北上中学校での料理講習会

ニチレイフーズは2012年2月、宮城県石巻市の北上中学校で開催された料理講習会に参加しました。このイベントは東日本大震災により仮設住宅での生活を余儀なくされている方々が、自発的に参加でき、懇親を深めることで住民間の自立的活動のきっかけづくりとなることをテーマに、北上仮設住宅自治体と北上中学校の主催で開催されました。

石巻北上地区はNPO法人セカンドハーベストジャパン(以下2HJ)が震災当時からサポートを続けている地域であり、フードバンク活動を通じ2HJと交流のあるニチレイフーズにお声掛けいただいたことから、食育プロジェクトメンバーを中心に参加しました。

当日はニチレイフーズの冷凍食品に、野菜・フルーツなど各種栄養を補う素材を使用してひと手間加えたアレンジメニューを紹介。参加者の方々と一緒に調理しました。「家でもまた作って家族で食べたい」という嬉しい感想も多数いただ

くことができ、盛況のうちに終了しました。生活の基盤としての“食料供給”を経て、人と人をつなぐ“食卓”の提供のお手伝いをすることは、食品企業として求められる社会貢献の1つではないかと考えます。今後は、社内での支援協力の輪を広げ、継続した活動にしていきたいと考えています。



講習会の様子

# 東日本大震災後のニチレイグループの

http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/env2012/topic/topic\_03.html

ホーム > CSRレポート2012 > 東日本大震災後のニチレイグループの対応報告と今後

今回の東日本大震災から食に関わるニチレイグループの重要な使命が、「事業を継続させ食のネットワークを途切れさせないこと」であることが再認識されました。大きな災害が発生したときもこのネットワークが持続または早期復旧できる体制を整えることでニチレイグループは社会にとってこれまで以上に必要な企業グループとなることができると考えています。この考えに基づき、危機管理体制の強化や事業体制の再構築に取り組んでいます。

## 情報の収集と共有

このたびの震災で一番課題となったのは情報の収集と共有でした。通信設備の見直し、情報収集の仕組みの整備や安否確認システムの構築など、今回得た教訓を今後の備えに活かしていきます。

## 従業員の安否などの情報

ニチレイグループ全体で、2012年度上期中に安否確認システムを導入する予定です。震度5強以上の地震などの災害等が発生した場合に、安否確認メールや現地情報を入力する旨のメールが従業員に一齐送信され、それらの情報が専用ホームページで閲覧および集計できるなど、情報共有を迅速に行えるシステムです。

## 事業継続のためのお客様とのやり取りのための情報

情報システム系のリスクマネジメント対策として、2011年度にデータセンターの2拠点化、設備の2重化を実施しました。東日本にある既存データセンターに加え、西日本の2ヶ所にデータセンターを増設しました。一方のデータセンターに障害があり機能不全となった場合、自動的にもう一方のサーバーに切り替わり継続利用ができます。加えて、経理部門を東京と大阪の2拠点に配置することで、経理情報のバックアップ、事業継続のためのリスク管理体制を構築しました。

## 備蓄・早期復旧体制

災害等が発生した場合の初期を乗り切るための準備と、早期復旧のための体制を整えました。今回の震災で、代替拠点やルートの確保により、被災地への食料供給を早期に復旧し、食の流通に対する一定の使命が果たせました。2012年度はさらに課題を洗い出し、それらの強化を図っていきます。

## 従業員等への備蓄

3日間分の最低限必要な災害用備蓄品として、「非常用食料、水、ブランケット」の3点セットをグループ内全事業所へ配備しました。また、建物倒壊や津波等により、各事業所の災害用備蓄品が機能しないケースに備え、全国を10エリアに分けて「エリア供給用備蓄拠点」として災害用備蓄品を配備しました。

## 備蓄品・備蓄量の見直し

ニチレイロジグループでは、非常用備品の見直しをし、工具・発電機・食料品・医薬品・トイレ・その他備品等の品目と数量を改訂し、「防災マニュアル」に備品・安否確認編に掲載しました。2012年度は各センターへの浸透を図っていきます。

## 早期復旧のための技術社員の全国応援体制の構築

(株)ニチレイ・ロジスティクスエンジニアリングでは、東日本大震災の発生時、全国の事業所から数名の技術社員を選抜し被災事業所へ派遣することで、早期復旧に一定の効果を得ることができました。2011年度は支援組織・装備・支援マニュアル(具体的な行動)を整備・周知しました。これにより震災時の現地技術社員との連携強化が期待されます。

# 対応報告と今後

## 地震対応マニュアルの改訂

ニチレイグループでは従来、首都圏直下型地震を想定した対応マニュアルを策定し、従業員に配布しています。このたびの震災を教訓に、対応マニュアルの見直しを図り、全事業所への周知徹底を図りました。

### 「ニチレイグループ地震対策マニュアル」

- 【主な改訂内容】
- 「Nグループ震災情報発信DB」への情報一元管理について
  - 「現地対策本部」の体制と役割の明確化
  - 従業員と家族間の安否確認について

### 「地震対策マニュアル(ニチレイ東銀座ビル編)」

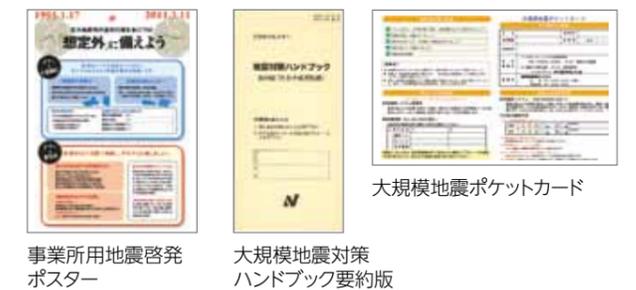
- 【主な改訂内容】
- 被害想定シナリオの対象期間を2ヶ月間へ拡大
  - 東銀座ビル自衛消防隊の位置付け・役割・行動について
  - 「災害予防対策」「避難基準」「帰宅基準」「出社基準」について

## 教育・啓発

地震等の災害発生時は、「わかってはいるが動けない」ことがあります。経験の無い人も対応できるように、日ごろの訓練と啓発を行っています。

### ●災害時初動対応・対策ツールの配布(事業所・従業員)

事業所用地震啓発ポスター	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「普段からの心構え」および「巨大地震発生時の基本行動」</li> <li>● 徒歩帰宅の判断基準および徒歩帰宅時への備え</li> </ul>
大規模地震対策ハンドブックおよび要約版	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「災害伝言ダイヤル」等の具体的な利用手順</li> <li>● 被災時の避難場所等の情報を各自が記入できる形式</li> <li>● グループ各社の連絡先一覧表を最新情報へ更新</li> </ul>
大規模地震ポケットカード	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 定期入れ、財布等に挿入できる携帯タイプ</li> <li>● 地震が発生した際の初動対応等について</li> </ul>



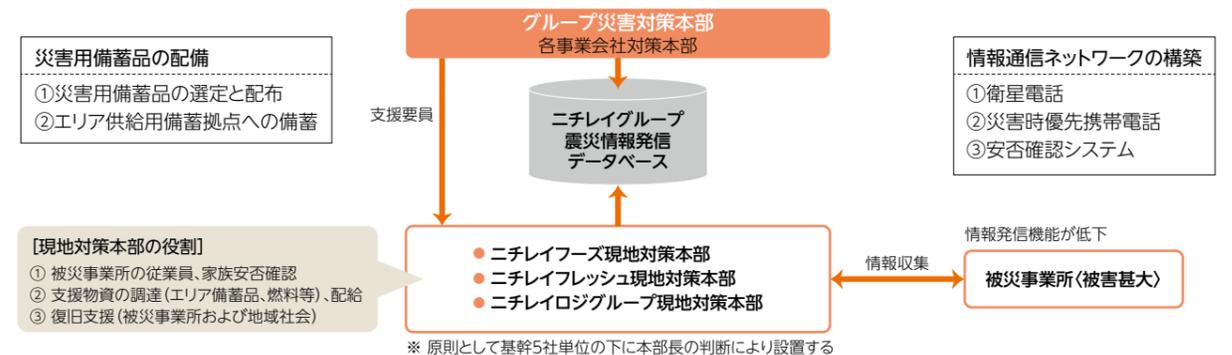
## 緊急地震速報の整備

食品工場では、緊急地震速報を整備し、強い地震を事前に察知した上で、安全に避難するまでの「災害発生時行動マニュアル」を見直しました。

## 津波を想定した避難訓練の実施

海岸に近い食品工場を対象に、火災に加えて新たに津波を想定した避難訓練を実施し、津波発生時の避難場所を明確にしました。仙台地区の物流センターでは日ごろの避難訓練が功を奏し、津波発生時に従業員ばかりでなく近隣の会社の方も無事避難できました。また、道路走行中のドライバーの救助もできました。これからも継続して防災訓練を実施していきます。

### ●ニチレイグループ 災害対策本部の体制



# マネジメント

http://www.nichirei.co.jp/corpo/env/env2012/manage/manage\_01.html  
ホーム > CSRレポート2012 > マネジメント

## コンプライアンスの徹底

### ● 行動規範

ニチレイグループでは、あらゆる企業行動の根幹として、1999年4月に行動規範を制定しました。変化する事業環境に即した行動基準とすべく、グループ教育訓練規程に基づき毎年内容を見直ししていくとともに、各社掲示板の「ケーススタディ」などを通じて教育・啓発を行い、コンプライアンス経営を徹底しています。

#### ニチレイグループの行動規範目次(2012年4月改訂)

- 法令および社内規程・ルールへの遵守
- 会社財産の有効活用と公私混同の禁止
- 社会貢献に関する活動
- 環境保全に関する活動
- 事業活動に関する基本的な姿勢
- 個人の立場と従業員の立場の利害調整
- 社内における交際
- 情報セキュリティ
- 国家公務員など行政団体への対応について
- 内部通報・相談制度について

## 業務執行・経営監視

監査役設置会社制度を採用するニチレイでは、経営の透明性向上と経営監督機能の強化を図るため、取締役の任期を1年とし、社外取締役を選任するとともに、毎月1回以上の取締役会を開催しています。

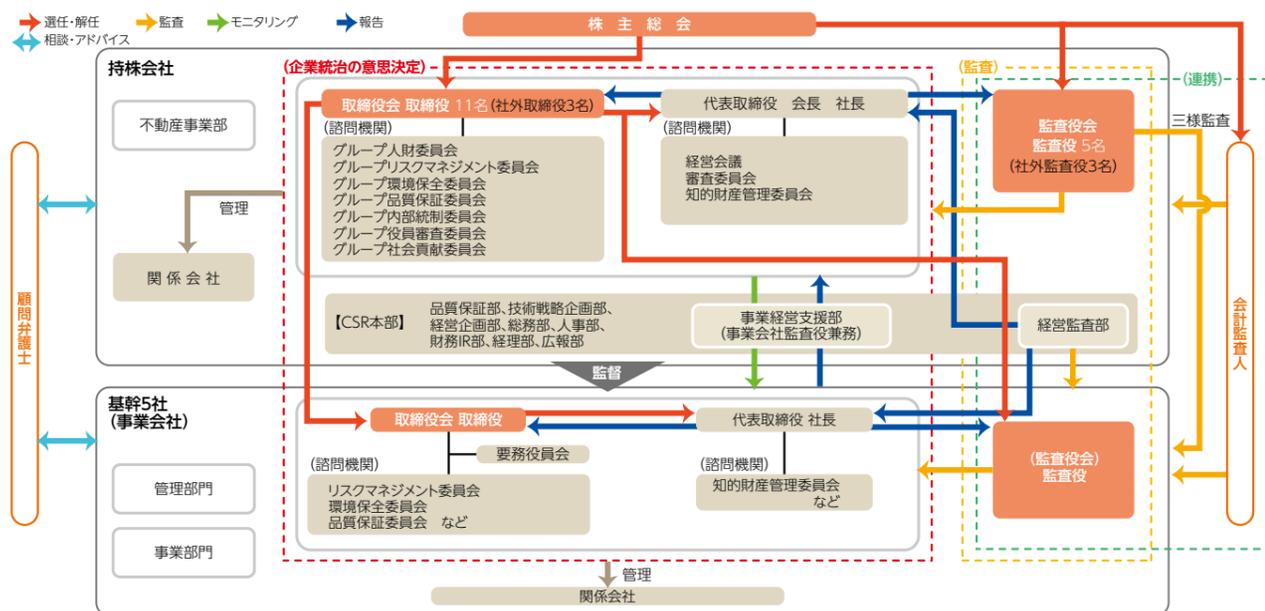
社外取締役は、経営陣からは独立した立場で、経営に関する各種案件を審議するとともに、グループ戦略や業務執行に関するモニタリングを行っています。

監査役は財務・会計に知見を有する人材を選任するとともに、経営陣から独立した立場にある社外監査役を置くほか、両代表取締役が、取締役会とは別に監査役会に対しても定期報告する機会を設けるなど、業務執行に対する監査役の監督機能を充分果たす仕組みを構築しています。

また、各事業会社に大幅な権限委譲を行う一方、事業のモニタリング機能を強化するため、持株会社であるニチレイの組織に事業経営支援部を設置し、各社の非常勤監査役を兼務するとともに、経営進捗状況等を毎月持株会社へ報告するほか、各社に対し経営のサポートも行っています。

さらにコーポレートガバナンスを有効に機能させるため、取締役会の諮問機関として7つの委員会を置くとともに、代表取締役社長の業務執行に資することを目的として「経営会議」「審査委員会」「知的財産管理委員会」を設置しています。

### ● コーポレートガバナンス体制図



## 第三者意見

# ニチレイグループ「CSRレポート2012」を読んで



神戸大学大学院経営学研究科教授  
國部 克彦

### 6つの責任をベースにしたCSR活動

ニチレイグループは、「新たな顧客価値の創造」「働きがいの向上」「コンプライアンスの徹底」「コーポレートガバナンスの確立」「環境への配慮」「ニチレイらしい社会貢献の推進」の6つの責任をベースにしたCSR活動を展開しておられます。これらの活動はニチレイの事業活動と密接に結びついたもので、日々の活動の中にCSRの視点を織り込まれている点は、高く評価できます。

### 食の安全・安心への取り組み

今年度の報告書では食の安全・安心について、多くのページを割いて説明がなされています。ニチレイグループの品質保証担当者同士の対談は、社内の議論ではあるものの、具体的に意義があります。消費者が最も関心を持つ放射能汚染の問題についても、踏み込んだ議論がされており、この点については他のページでも説明があって評価できます。今後は、社内だけの視点ではなく、社外の視点も取り入れてのダイアログを実施できれば、より充実したメッセージを伝えることができると思います。

### グローバル活動の展開

ニチレイグループはグローバル化にも積極的に取り組んでいます。ベトナム、中国などでの取り組みは、事業の拡大という意味で重要なだけでなく、新興工業国の生活の質の向上という意味でも大きな意義のある活動です。今回は特集記事という形での情報提供でしたが、今後はCSRの観点から海外事業を位置づけて、体系的に情報開示されることを期待しています。

### 働きがいの向上への努力

ニチレイグループは、顧客満足は従業員満足からという考えから、働きがいの向上にも大変努力されており、従業員満足度調査 (ES調査) についても詳細な説明があります。ヨーロッパでは、ES調査結果を、CSRの一つの目標として、情報開示している企業も少なくないので、ニチレイグループでも今後はそのような方向を検討されてはいかがでしょうか。透明度を高めることで、より多くのステイクホルダーの支持が集まると思います。

### 地球温暖化防止と資源循環を中心とした環境保全活動

ニチレイグループの環境保全活動は、地球温暖化防止と資源循環を中心に着実に推進されています。特に、サプライチェーン全体での環境負荷の低減を意識されて活動されていることは評価できます。サプライチェーン全体での環境負荷の低減は、世界的にみて環境経営の重要なテーマですので、今後はその全体的な成果を見える化するような工夫も必要になってくると思います。今後の一層の発展を期待しています。